

Quality is more than a word

ESPEC

Corporate Social Responsibility

REPORT **2009**



ESPEC



暮らしの安全・安心は、エスペックから—



エスペックの環境創造技術が、 身近な製品の品質・信頼性向上を支えています。

今や私たちの生活になくてはならないパソコンや自動車などの工業製品は、温度や湿度、圧力といった環境に大きな影響を受けます。人々が安心して使えるようにするには、実際に使用される環境で機器がどのような影響を受けるのかを事前にテストしておくことが必要になります。そこで活躍するのが、人工的にさまざまな環境を自在に再現する、エスペックならではの「環境創造技術」。エスペックはこの「環境創造技術」を通じて、人々の暮らしと社会の「安全」「安心」づくりに貢献しています。

エスペックCSRレポート2009

編集方針

- 本CSRレポートは、企業の社会的責任に関わる説明責任の重要性の認識に基づいて、制作・発行するものです。
- 報告をまとめるにあたり、「ステークホルダーのみなさまの関心」と「事業活動としての重要性」の観点から内容を選択しました。特に重要と考える取組みは特集に取りあげ、報告を行っています。各論パートも重点課題と新たな取組みを中心に構成し、導入文では基本的な考え方を紹介しています。
- 本誌は網羅性の観点から、①経営・マネジメント、②社会性パフォーマンス、③環境パフォーマンスの3部構成としています。社会性パフォーマンスではステークホルダーの包含性という観点から、重要なステークホルダー（お客さま/従業員/取引先さま/株主・投資家さま/地域社会）ごとの報告としています。環境パフォーマンスでは、環境に関する各種基礎的なデータに加え、グリーンプロダクト・グリーンプロセス・グリーンマインド・グリーンアクションの4つの側面から当社の取組みの全体像をご紹介します。
- 本誌中の (WEB) は、当社ホームページ上で関連情報を開示している旨を示しています。
 ↳エスペックホームページ：http://www.espec.co.jp/
- 経済パフォーマンスの情報につきましては、ファクトブックをはじめとする各種IR資料をご参照ください。

対象範囲

【事業所の対象範囲】

国内エスペックグループの主要な関係会社・事業所を対象としています。ただし、すべての項目について、カバーしているのではなく、各社の規模や事業内容に応じて記載しています。

【事業の範囲】

エスペックの事業は環境試験事業（環境試験器、アフターサービス、受託試験等）、電子デバイス装置事業（FPD装置、半導体装置）、その他事業（環境エンジニアリング）であり、これらの事業活動全般について報告しています。

【対象期間】

主に2008年度（2008年4月1日～2009年3月31日）を対象期間とし、過去より継続して実施してきた内容および直近の内容についても時期を記述したうえで、掲載しています。

準拠したガイドラインなど

- ・環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」
- ・環境省「事業者の環境パフォーマンス指標」
- ・GRI（Global Reporting Initiative）
 「GRIガイドライン第3版（Sustainability Reporting Guidelines version 3.0）」

発行時期

毎年9月末頃（年1回）発行

CONTENTS

TOP MESSAGE / トップメッセージ	3
WHAT'S ESPEC?	企業プロフィール 5
WHY ESPEC?	事業内容 7
特集	1 新エネルギー市場での取組み 9
	2 グリーンプロダクトの開発・提供 11
	3 植物工場での取組み 13
CSR活動の2008年度実績	15
経営・マネジメント	THE ESPEC MIND 17
	CSR経営 18
社会性パフォーマンス	お客さまとのかかわり 21
	従業員とのかかわり 23
	取引先さまとのかかわり 26
	株主・投資家さまとのかかわり 27
	地域とのかかわり 29
環境パフォーマンス	環境マネジメント 31
	グリーンプロダクト 35
	（環境に配慮した製品とサービス）
	グリーンプロセス（環境に配慮した工程） 38
	グリーンマインド（環境教育） 40
	グリーンアクション（社会貢献） 41
	物質フロー 43
	実績データ 44
	環境会計 45
	エスペック環境ウィーク 46
	2008年度上位入賞者作品

会社概要

2009年3月31日現在

社名	エスペック株式会社
英文社名	ESPEC CORP.
創業	1947年7月25日
設立	1954年1月13日
資本金	6,895百万円
証券市場	東証・大証一部上場（証券コード：6859）
従業員数	1,338名（連結）、655名（単独）
URL	http://www.espec.co.jp/

主な事業所

2009年4月1日現在

本社	大阪市北区天神橋3丁目5番6号
営業拠点	仙台・さいたま・東京・名古屋・大阪・広島・福岡
工場その他事業所	福知山・宇都宮・神戸・横浜
子会社および関係会社	国内6社、海外9社（詳細はP6参照）

営業概況

2009年3月期

	連結	単独
売上高	34,914百万円	21,307百万円
営業利益	509百万円	△699百万円
経常利益	766百万円	2百万円
当期純利益	△561百万円	△901百万円
総資産	38,719百万円	31,292百万円
純資産	29,212百万円	24,901百万円

市場変化に対応した抜本的な自己改革により、質的成



課題を明確にして 自己改革を進めていきます。

2008年度は、米国に端を発した世界同時不況により、当社の主要顧客である自動車・エレクトロニクスメーカーやFPD（フラットパネルディスプレイ）・半導体メーカーの業績が大きく低下し、下期から設備投資の中止・抑制の動きが急速に強まりました。当社はこの影響を受け、売上、利益ともに大幅に悪化しました。

2009年度に入ってから一部景気の底打ちが見られるものの、顧客企業では、設備投資の選別・縮小計画を打ち出しており、厳しい状況は今後も続くものと予想しています。

今回の世界的な経済危機の影響は決して小さくはありませんが、今後当社が持続的成長を果たしていくために必要な「変革の好機」と捉え、環境変化の中で浮かび上がってきた課題に対し、抜本的な自己改革を進めてまいります。

その中核となる考え方は、一つは「基本に立ち戻り、当社の基幹事業である環境試験事業に経営資源をシフトし、事業基盤をゆるぎないものに強化する」ことであり、二つは「組織構造とコスト構造を改革し、収益力強化を図る」ことです。

「お客さまの視点」に基づく活動を徹底し、「事業・商品・サービス」を一から見つめ直し、その「質」を高めることで、さらなる成長を目指していきたいと考えています。

事業構造改革による「経営のスピード化」

当社の電子デバイス装置事業の市場であるFPDや半導体の設備投資は、市況により大きく変動します。今回明らかになった課題の一つが、環境試験事業と電子デバイス装置事業の事業別組織体制であったために、市場の変化に柔軟に対応し、収益の厳しい事業の経営資源をスピーディにシフトできなかったことです。そこで、事業別の組織体制を設計・生産・営業などの機能別の組織体制に変革し、経営資源を柔軟に活用できるようにしました。あわせて、本社機能の強化と人員の適正配置を行い、経営システムの効率化・スリム化を図りました。

収益構造改革による「コストミニマム化」

固定費負担が重く、利益が出にくい企業体質であったことも、今回の環境悪化により顕在化した課題です。徹底した経費削減はもちろん、販売体制の再編や調達・生産機能の集約、内製化の促進、人的施策などにより収益構造改革を実施し、「コストミニマム化」を進めています。

代表取締役社長

しん のぶ よし
進 信 義

長を実現し、社会的責任を果たしていきます。

中長期的成長に向けた仕込み

中長期的な課題としては、新規事業開発の必要性が挙げられます。

当社は、すでに環境試験器の国内シェアが6割に達しており、今後の大幅なシェア拡大が困難な中で、国内市場の成長鈍化はそのまま当社の業績に影響することとなります。

中期的成長を目指すには、カスタム対応の強化によって対応領域を広げ、顧客の個別ニーズにしっかりと応えていくことと、新技術・新製品の開発、成長市場における新たな事業テーマの育成が不可欠になります。

二次電池や太陽電池などの新エネルギー市場での販売を強化し、顧客ニーズを捉えた新たな製品の開発・提案を進めるために、カスタム対応体制を強化しました。また、これまで事業ごとに分散していた製品開発機能を集約し、新たに「製品開発部」を設置しました。さらに、技術開発を統括する「技術開発本部」においても、従来の開発システムやプロセスを再構築し、技術レベルをさらに向上させるとともに、製品開発部との連携を強化することで、開発効率を高めていきたいと考えています。

また、長期的成長に向け、当社の強みである「環境創造技術」を活かして展開できる新市場・新分野のリサーチや、新たな芽づくりに取り組んでいます。同時に、中国や東南アジアをはじめとするアジア地域でのさらなる市場開拓など一層の海外強化も不可欠であると考えています。

CSRの視点を大切にしたい取り組みで、質的成長・社会貢献を図っていきます。

当社の価値観を体系的にまとめた「THE ESPEC MIND」では、当社のミッション（使命）を「『環境創造技術』をコアにした事業展開により社会に貢献する」と定めています。このことは、厳しい経営環境の中で質的成長を目指していくうえで、ますます重要になると考えています。

新エネルギー市場における事業展開を通じた、低炭素社会実現への貢献

持続可能な社会発展のために、石油などの化石燃料への依存から脱した「低炭素社会」への転換が世界的な課題となっています。そうした中で注目されているのが、新エネルギー（二次電池・太陽電池・燃料電池）です。当社ではカスタム対応を強化させて、生産や評価、開発段階におけるさまざまなニーズにお応えすることで、環境・新エネルギー分野の技術の進歩や信頼性向上に貢献し、低炭素社会の実現に寄与していきたいと考えています。（特集1）

グリーンプロダクトの創出によるCO₂削減

環境試験器が地球環境に与える影響として大きいのが、運転時の電力消費によるCO₂の排出です。当社では今年の4月から、製品の環境性能をお客さまにより分かりやすくお伝えするとともに、環境配慮製品の一層の開発促進を目的として、製品への「環境ラベル」の表示を開始しました。

認定第1号となった恒温恒湿器「プラチナスKシリーズ エコモデル」では従来モデル比30%以上の省エネを実現しています。また、新製品の開発にあたっては、製品の環境性能を資材調達から製造・使用・廃棄に至るライフサイクル全体で評価する独自の環境効率指標「Eファクター」を設定し、取り組んでいます。今後も環境配慮製品の開発に向けて、一つずつコストや技術的な課題をクリアすることで、優れた環境配慮製品を創出し、地球温暖化防止に貢献していきたいと思えます。（特集2）

環境エンジニアリング事業による社会貢献

当社グループのエスベックミックでは、森づくりや水辺づくり、都市緑化等の環境エンジニアリング事業を行っています。その事業の一つとして、当社が環境試験で長年培った「環境創造技術」を活かし、植物が育つ光や温度などの環境を人工的に創出して、野菜を育てる「植物工場」があります。現在当事業の規模は決して大きくありませんが、食糧自給率の向上や食の安全・安心が強く求められる中、2009年度の政府予算に「植物工場の普及・拡大」が盛り込まれるのを受けて、当事業の取り組みの強化を図ってまいります。

今年の5月には、政府の施策の一つとして、経済産業省の別館ロビーに同社の植物工場モデル施設が設置されましたが、予想をはるかに超える多くの方々が見学に訪れ、社会の関心の高さを実感しました。この事業は、単に事業収益の拡大を求めるだけでなく、社会貢献の視点からも大切に育てていきたいと考えています。（特集3）

*

私はさまざまな事業活動を通じて社会的責任を果たすことこそ、企業の存在意義があり、その先の持続的な成長があるのだと考えています。当社の事業は、今や社会に欠かすことのできないさまざまな工業製品の信頼性・品質を支え、広く社会の安全・安心づくりに貢献するという高い社会的責任を担っています。

このCSR報告書を通じて、当社のさまざまな活動を一人でも多くの方にご理解いただき、みなさまから忌憚のないご意見や評価を頂戴し、それをこれからの経営に生かすことで、「質的成長」を図っていきたくと考えています。今後ともご理解・ご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

WHAT'S ESPEC? WHY ESPEC?

私たちは、「環境創造技術」の 世界No.1ブランドです。

日本で、世界で環境試験器No.1のエスベック。選ばれてNo.1のその理由をご紹介します。

世界No.1ブランド

エスベックは、環境試験器市場で国内62%、世界28% (2007年度 当社推定)と、圧倒的なシェアを誇る世界No.1メーカー。高い品質と技術力で「エスベック」ブランドは世界のお客さまから高い信頼を得ています。さらに、環境試験器で培った「環境創造技術」を要に、電子デバイス装置や環境エンジニアリングにも幅広く事業を展開しています。

環境試験器

日本市場シェア

62%

世界市場シェア

28%



グローバルネットワーク

エスベックは、お客さまのグローバル化とともに早くから海外進出を行ってきました。世界36カ国に販売ネットワークを構築しているほか、生産拠点を中国・アメリカ・韓国に設置しています。このような当社の充実したネットワークがグローバルに事業を展開するお客さまへのきめ細やかな対応を可能にしています。

海外販売代理店等

25社



トータルソリューション

エスベックは、製品の提供だけにとどまらず、お客さまに代わって試験を行う受託試験や迅速なアフターサービス、レンタルなど、お客さまの多様なニーズにお応えするメニューを取り揃えています。また、長年培った技術とノウハウで、試験の企画から結果分析・評価に至るまでトータルソリューションをご提供しています。

エスベックテストセンター株式会社 豊田試験所



受託試験所

全国 **5**カ所

サービスブランチ

全国 **21**カ所

環境経営

エスベックは、「ISO14001」認証の全社一括取得はもとより、環境配慮製品の開発、代理店や仕入先への環境マネジメント支援、事業所におけるソーラーパネルの設置や植樹活動など、地球環境の保護・改善に積極的に取り組んでいます。また、自然環境を創造・修復する環境エンジニアリング事業でも貢献しています。

全社一括

ISO14001認証取得
(3社28事業所)



EU

ESPEC EUROPE GmbH

JAPAN

エスベック株式会社
 エスベックエンジニアリング株式会社
 エスベックテストセンター株式会社
 エスベックテクノ株式会社
 エスベック九州株式会社
 エスベックミック株式会社
 株式会社ミックファーム大口

ASIA

上海愛斯佩克環境設備有限公司
 広州愛斯佩克環境儀器有限公司
 愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
 愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
 ESPEC (CHINA) LIMITED
 ESPEC KOREA CORP.
 ESPEC (MALAYSIA) SDN.BHD.

AMERICA

ESPEC NORTH AMERICA, INC.



創業小屋(エスベック歴史館)

創業 **62** 周年

日本初

1961年
環境試験器開発



業界唯一
の上場企業
(東証・大証1部)



広州愛斯佩克環境儀器有限公司

15社 関係会社
国内6社
海外9社



国内販売代理店等
54社
国内営業所
14カ所



エスベックエンジニアリング株式会社 本社

24時間 フルタイム技術
対応サービス



77%
即日修理対応

受託試験
分析・解析
コンサルティング
...etc.



30%
以上省エネ
従来モデル比
プラチナスKシリーズ
エコモデル



累計植樹本数
230万本
以上
環境エンジニアリング事業
森づくり



年間 **CO₂ 50t**削減
事業所のソーラーパネル

宇都宮テクノコンプレックス 太陽光発電施設

WHAT'S ESPEC? WHY ESPEC?

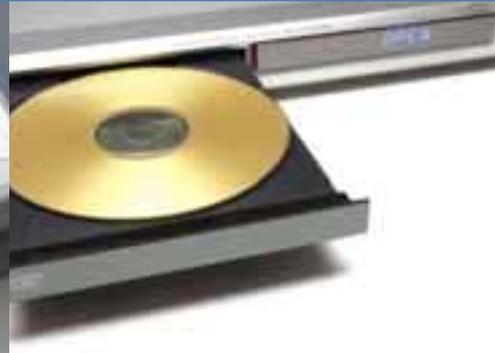
オリジナリティの高い3つの事業で、技術・産

環境試験事業

電子機器や自動車などの品質・信頼性を高める環境試験事業を展開しています。

温度や湿度、圧力、振動などを高精度に制御して、あらゆる環境を人工的に再現する環境試験器。パソコンや携帯電話などの電子機器や自動車などの研究開発および信頼性評価用としてご使用いただいております。エスベックの環境試験器は世界のNo.1ブランドとして高い評価をいただいております。

2008年度
売上高
25,911百万円
(74%)

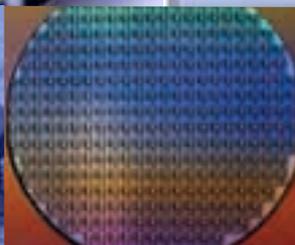


電子デバイス装置事業

FPDや半導体の製造・検査用の装置を提供しています。

FPD(フラットパネルディスプレイ)や半導体の製造には、高度な温度制御やクリーン化が欠かせません。これら電子デバイスの製造や検査工程において活躍しているのが、エスベックの電子デバイス装置です。生産性向上、低コスト化、高性能化へのニーズにお応えしています。

2008年度
売上高
8,208百万円
(23%)



その他事業

自然の植生にこだわった森づくり、水辺づくり、屋上緑化を進めています。

環境エンジニアリング事業では、その土地本来の植生にこだわった植樹を行う「森づくり」や自然の河川を取り戻す「水辺づくり」に加え、都市緑化、植物生産システムの提供など、自然環境の創造や修復に関わる事業を展開しています。

2008年度
売上高
980百万円
(3%)



森づくり



水辺づくり



屋上緑化



植物生産システム

業の発展、自然との共生に貢献しています。

環境試験器

温度や湿度、圧力、振動などを高精度に制御して、あらゆる環境を人工的に再現する環境試験器。高品質で安全性の高い製品の研究開発に役立てられています。



ワイドビュー恒温(恒湿)器
プラチナスKシリーズ



ハイパワー恒温(恒湿)器
ARシリーズ



サービス風景

アフターサービス・エンジニアリング

環境試験器のメンテナンスサービス、機器・装置の設置・移設・改造、周辺機器の販売などをお客さまをサポートしています。



冷熱衝撃装置 TSAシリーズ



恒温(恒湿)室 ビルドインチャンパー



受託試験所内風景

受託試験・レンタル

お客さまに代わって試験を行う受託試験。プロならではのノウハウと充実した設備でお客さまのニーズにお応えしています。機器のレンタル等のサービスも行っています。

FPD装置

液晶などのFPD(フラットパネルディスプレイ)の生産ラインにおける、クリーン熱処理装置および検査装置を提供しています。



FPD装置
枚葉式クリーンオーブン



半導体装置
バーンインチャンパー

半導体装置

半導体・電子部品などの電気的特性を評価する計測システム、半導体の検査工程におけるバーンイン装置を提供しています。

環境エンジニアリング

森づくり・水辺づくりに加え、都市緑化や植物生産システムの提供など、自然環境の創造や修復に関わる事業を展開しています。植樹本数は現在では累計約230万本、水辺づくりの累計面積は約10haにも上ります。

■森づくり



■水辺づくり



新エネルギー市場での取組み

新エネルギー市場への製品提供を通じ、 低炭素社会の実現に貢献しています。

地球温暖化が世界の共通課題として認識されるようになり、環境に優しい低炭素社会への転換が模索されています。その実現に向けて、大きな期待を集めているのが、ハイブリッドカーや電気自動車で使われる二次電池と、太陽電池パネルです。新エネルギー市場を重点市場として捉えるエスペックでは、これらの製造・検査工程等においてさまざまな製品をご提供しており、長年培った「環境創造技術」を要に、お客さまのニーズにカスタム対応できめ細かにお応えし、低炭素社会の実現に向けた製品・技術開発に貢献しています。

電気自動車・ハイブリッドカーのキーデバイス 「リチウムイオン電池」

何度も繰り返し充電して使える二次電池。その中でも、高性能で注目を集めているのが、リチウムイオン電池です。リチウムイオン電池は、エネルギー密度が高く、小型・軽量化ができ、また、浅い充放電を繰り返すと容量が減少してしまうメモリー効果が少ないため、継ぎ足し充電が可能など、優れた特長を備えています。

ノートパソコンや携帯電話などではすっかりおなじみになっているリチウムイオン電池ですが、ハイブリッドカーでは、まだまだニッケル水素電池が主流です。自動車および電池関連メーカーでは、リチウムイオン電池への置き換えに向け、現在積極的に開発が進められていますが、その中で特に課題となっているのが、リチウムイ

オン電池に水分が含まれていると発熱・発火の危険があることです。人の命を乗せる自動車では、パソコンや携帯電話以上に高い安全性が求められており、製造工程で乾燥を行い、電池内の水分を完全に除去する必要があります。しかしながら、より完全に水分を除去しようとすると乾燥時間が長くなり、生産性が低下することから、電気自動車やハイブリッドカーに搭載するような大型の電池の製造方法は今も十分に確立されていないのが実情です。

当社は、電池を乾燥させるためのオープンを提供していますが、単に機器を提供するだけでなく、こうしたお客さまが抱えている課題や要望に対してきめ細かく応えるカスタム対応を通じ、お客さま

と一緒に生産性と安全性を両立した新たな製造方法の確立に向けて取り組んでいます。

また当社の製品は、製造工程だけでなく、検査工程でも活躍。例えば環境試験器を用いて、さまざまな温度下で充放電を行い、性能を評価する温度特性試験が行われています。ノートパソコンや携帯電話用などの小型の電池は標準の試験器で対応することも可能ですが、車載用の大型電池には相応の容積が必要なうえ、より高い能力の試験器が求められます。さらに、電池は化学反応を利用しているため、試験時にも爆発の危険性があり、十分な安全対策が必要ですが、こうしたニーズにもカスタム対応でお応えしています。



ガソリンやディーゼルエンジン車に代わるハイブリッドカー・電気自動車の動力源として注目を集める

リチウムイオン電池

製造工程

リチウムイオン電池は水分を非常に嫌う性質であることから、乾燥させることで電池内に含まれる水分を除去。生産性向上に向けた新たな製造ノウハウの確立に貢献。



石油に代わる新しいエネルギー源として期待される

太陽電池

開発工程

さまざまな温湿度環境下における太陽電池モジュールの信頼性・耐久性を評価。国際試験規格 (IEC) にも対応。

- 結露凍結試験
- 温度サイクル試験
- 温湿度サイクル試験
- 高温高湿試験
- 温度試験



大型温湿度槽 SMシリーズ

一般家庭用などで普及が進む「太陽電池パネル」

昨今、一般家庭用や発電施設用として普及が進んでいる太陽電池ですが、この太陽電池の開発工程でもエスペックの環境試験器が信頼性評価に使われています。

太陽電池パネルを試験する環境試験器は大きなパネルを収めることのできる容量でなければ

ならないだけでなく、より高い加熱・冷却の能力とともに、温度分布などのバラツキを抑える精度が求められます。当社は、さまざまな環境を精密に再現することができる「環境創造技術」の強みを活かして、これらお客さまのニーズに対応しており、高い評価をいただいています。

また、グローバルに事業を展開しているお客さまでは、世界の各工場で同一機器による同一基準の試験がしたいというニーズが高く、当社が生産・販売・サービスネットワークをグローバルに構築していることも優位性の一つとなっています。

カスタム対応の強化による新エネルギー市場での貢献

車載用の二次電池や大型の太陽電池パネルをはじめとする新エネルギー市場への対応において、キーを握るのが顧客の課題をしっかりと把握し、ニーズに応えるカスタム対応力。このお客さまの課題発掘と解決に取り組むカスタム対応により、安全で省エネ、高効率な環境試験や製造

ノウハウの確立に貢献したいと考えています。

そこで、エスペックでは2008年度から新たにカスタム対応を専門とする部門を設置するとともに、要員を増強するなど体制を強化しました。

新エネルギー市場の特性の一つが、単に自動車や二次電池、太陽電池メーカーだけでなく、そ

れらに関連する部品や素材メーカーなど裾野が広く、お客さまが多様であること。当社では、充実したカスタム対応体制により、こうした多くのお客さまのニーズを収集し、積極的かつ真摯にお応えすることで、新エネルギー分野における製品開発・技術開発への貢献を進めています。



真空オーブン

検査工程

さまざまな温度環境にさらしながら充放電を行い、それらの環境下における二次電池の性能（電圧・電流等）を評価。

電池から発生する可燃性ガスによる引火・爆発への安全対策や、省スペース化、大容量のニーズにも対応。



2段積み恒温槽



安全機構付恒温室 ビルドインチャンバー

グリーンプロダクトの開発・提供

環境負荷の少ないグリーンプロダクトの開発に取り組んでいます。

環境試験器は、百数十℃もの高温やマイナス40℃以下の低温など、さまざまな環境を人工的に再現するために、多くの電力を消費します。また、製品を廃棄する際などにも地球環境に負荷を与えます。こうした環境負荷を少なくするため、当社が重点を置いて取り組んでいるのが、グリーンプロダクト(環境に配慮した製品とサービス)の開発。製品の省エネに加え、製品への環境ラベル表示、リサイクルなど、グリーンプロダクトの開発に向けた当社の新たな取り組みをご紹介します。

温度や湿度、圧力などさまざまな環境を人工的に槽内に創りだし、その環境ストレスの影響を評価することで製品の安全性や信頼性をテストする環境試験は、多くの電力を消費します。環境試験器において、製造から廃棄までのライフサイクル全体でCO₂の排出量を評価すると、製品使用時の排出量が全体の約98%を占めているというデータ(プラチナス4型 10年使用時)もあり、製品を使用する際の電力消費の影響がとて大きいことが分かっています。加えて、冷凍回路に使われているHFCフロンが大気に放出された場合の地球温暖化への影響、製品廃棄時の廃棄物処分場への負担なども、環境負荷となります。

こうした環境負荷を減らすため、当社が特に注力して取り組んでいるのが「グリーンプロダクト」の開発です。

ライフサイクル全体で環境性能を考えた開発・設計を実施

エスペックでは環境負荷を製品のライフサイクル全体で捉え、グリーンプロダクト(環境に配慮した製品・サービス)の開発を進めています。

その基本となっているのが、「環境配慮開発設計ガイドライン」。省エネルギーや省資源化など、配慮すべき項目を明確にするとともに、チェック項目を定めています。このガイドラインは製品を設計する際の指針としてだけでなく、製品の開発・製造に関する経営の意思決定の基準としても用いています。

また、製品の環境性能を単に省エネなどの環境負荷項目だけで評価するのではなく、製品の機能面・性能面も含め総合的に評価する基準として、2008年度に製品の環境効率を示す独自指標「Eファクター[※]」を設定しました。この「Eファクター」は新製品を開発する際の具体的・客観的な目標指標などとして活用していく方針です。

※Eファクター＝品質機能ファクター(容量・能力・温度制御の速度や範囲など)／環境負荷ファクター(CO₂排出量)

環境性能を分かりやすく表示する環境ラベル

製品の環境性能をお客さまに分かりやすくお伝えするとともに、環境配慮製品の開発を一層促進するために、2009年4月から製品への環境ラベル表示を開始しました。これは、当

社の定める環境配慮基準(従来製品比で15%以上消費電力削減)を満たした製品に環境ラベルを貼付するというものです。

この環境ラベルは、国際標準化機構(ISO)

■ グリーンプロダクトラベル認定製品



恒温恒湿器 プラチナスK シリーズ エコモデル

独自のMFC制御技術(周波数制御技術[※])により、常に最適な冷凍能力にコントロールし、省エネを実現しました。 ※特許出願済

<消費電力測定例>

製品型式	運転条件 [※]	従来モデル消費電力(kWh)	エコモデル消費電力(kWh)	比較省エネ率
PL-3KT(H)-E	60℃	1.54	1.01	35%
PL-3KP(H)-E	20℃	1.40	0.84	40%
PU-3KT(H)-E				
PU-3KP(H)-E	-40℃	1.61	0.98	39%

※無負荷・安定状態での測定値となります。



神戸R&Dセンターが 「第18回 兵庫県環境に優しい事業者賞」を受賞しました。

「環境に優しい事業者賞」は、環境に配慮した新しいライフスタイルづくりに資するとともに、事業者の環境保全活動を促進することを目的に、兵庫県が優れた環境保全活動を展開している事業者を選定・表彰するものです。

当社の「神戸R&Dセンター」は、研究開発の拠点として省エネ製品の開発をはじめ、太陽光パネルの設置や、ゼロエミッション（廃棄物のリサイクル率98%以上）の達成など、環境に配慮した事業活動を推進しています。また、事業所敷地内では従業員とその家族が約3万本を植樹した「ふるさとの森づくり」を行っているほか、

ビオトープ（生物生息空間）を設置し、環境啓発の場としても活用しています。

こうした環境に対する当社の積極的な取り組みが評価され、この度の受賞となりました。



授賞式（左端が当社社長）

が定める自己宣言型（タイプII）の環境ラベル（ISO/JISQ14021）に相当し、認定は、グリーンプロダクトラベル認定基準に基づいて、環境管理部門が行っています。



グリーンプロダクトラベル

■ 新技術で製品の大幅な省エネに成功

このグリーンプロダクトラベル認定第1弾となったのが、「恒温恒湿器 プラチナスKシリーズ エコモデル」と「冷熱衝撃装置 TSAシリーズ エコ運転機能搭載」です。

独自のMFC制御を採用した 「プラチナスK シリーズ エコモデル」

優れた性能・品質で高い評価を得ている当社の主力製品「恒温恒湿器 プラチナスKシリーズ」において、新たに独自のMFC制御（周波数制御※）により、省エネ性能を高めたのが、「エコモデル」です。MFC制御は、温度変化などの運転状況に合わせて、常に最適な冷凍能力を発揮で

きるようにするもの。さらなる能力アップを図りながらも、プラチナスKシリーズの従来モデルに比べ、30%以上の省エネを実現しています。

※特許出願済

エコ運転機能を標準装備した 「冷熱衝撃装置 TSAシリーズ」

試料に高温から低温、低温から高温と急激な温度衝撃を与えて、安全性・信頼性を評価する冷熱衝撃装置。試料を高温にさらしている間に別の槽内で冷氣をつくる予冷、冷却している間に熱気を蓄える予熱などにおいて、ヒーターと冷凍回路を同時に使用し、多くの電力を消

費します。

新採用のエコ運転機能は、この予冷・予熱を見直し、準備運転の稼働時間を短縮したものです。通常運転に比べ大幅な省エネを実現しました。（TSA-41L-Aを除く）

製品リサイクルサービスで 再資源化を促進

お客さま先で使用済みになった当社の環境試験器は、自社の責任で可能な限り再資源化し、廃棄物を削減したい。こうした思いから「広域認定制度※」の認定を取得し、その認定に基づく「製品リサイクルサービス」を2009年1月より開始しました。本サービスは、金属や断熱材など廃棄物の適正なりサイクル処理だけでなく、お客さまの廃棄手続きの負担軽減にもお役に立っています。（詳細は本誌P39をご覧ください）

※広域認定制度とは、製造事業者が広域的に自主回収および再生利用を行うことによって、廃棄物の減量、その他適正な処理の確保に資すると認められる廃棄物の処理について、環境大臣がその回収および処理を許可する制度です。



冷熱衝撃装置 TSAシリーズ エコ運転機能搭載

予熱や予冷運転を見直したエコ運転機能により、消費電力を大幅に低減しました。

<消費電力測定例>

製品型式	運転条件	試料		標準運転 消費電力 (kWh)	エコ運転 消費電力 (kWh)	比較 省エネ率
		プラスチック モールドIC (kg)	棚板 棚受 (kg)			
TSA-71S-A	高温さらし 125℃ 30分 (予熱140℃)	5.0	1.5	14.1	11.2	21%
TSA-71H-W	低温さらし -40℃ 30分 (予冷-50℃)	3.5	1.5	15.8	11.4	28%

20%以上
省エネ

植物工場での取組み

食の安全・安心に貢献する「植物工場」に取り組んでいます。

天候や気象条件に左右されることなく、野菜などの農作物を安定して生産できたら……そんな願いは、もう夢ではありません。その実現を手助けするのが、植物の生育に必要な光や温湿度、養分などを最適にコントロールし植物を育てる「植物工場」です。エスベックグループでは、環境試験事業で長年培った「環境創造技術」を活かして、20年以上前から植物工場の研究・取組みを進めてきました。今年5月には経済産業省の別館ロビーに植物工場モデル施設の設置をお手伝いするなど、大きな注目を集めています。

エスベックミックは、企業理念として「『本物』の環境をつくることにより社会に貢献する」を掲げ、森づくりや水辺づくり、都市緑化、植物生産システムなどの環境エンジニアリング事業を展開しています。

植物工場は、長年培ってきたエスベックならではの「環境創造技術」と植物育成のノウハウを元に、エスベックミックが古くから着目し、手がけている事業の一つです。

食の安全・安心や安定供給で食に関する課題解決に貢献

植物工場は自然条件の制約がほとんどないため、品質や収穫量において計画的・安定的な生産性を実現することができます。また、密閉した屋内環境であるため害虫等が入ってくる心配がほとんどなく、無農薬栽培を簡単に行うことができます。さらに、生産履歴の管理も容易であるため、トレーサビリティが向上するなど、安全・安心面でも大きなメリットがあります。植物工場は、まだまだ一般的ではありません

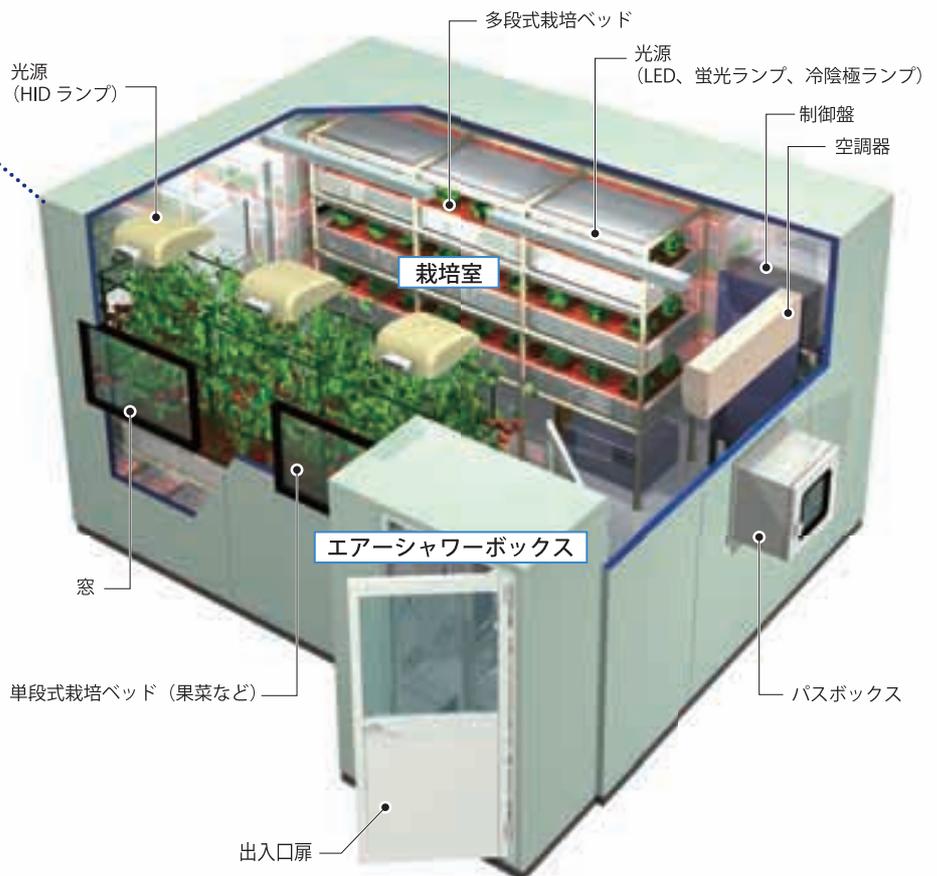
が、食糧自給率の向上や食の安全・安心が社会から強く求められる中、こうした食に関する課題解決に貢献するものとして大きな期待が寄せられています。

政府も、2009年度の補正予算に植物工場のPR活動・導入などに対する補助金を組み入れるなど、植物工場の普及・拡大に向けて積極的な支援を行っています。そして、そうした政府の施策の一つとして、2009年5月より経済

経済産業省別館ロビーに設置

(2009年10月末まで)

植物工場のモデル施設として2009年5月から、経済産業省の別館ロビーにエスベックミックの完全制御型の植物工場を展示。6月から内部に入れる一般向けの見学会も開催しています。



洞爺湖サミットのゼロエミッション ハウスにエスベックミックの 緑化システムが採用されました。

2008年7月に北海道で開催された洞爺湖サミットにおいて、最先端の環境配慮技術を結集した近未来住宅「ゼロエミッションハウス」が国際メディアセンターに併設されました。この北面一面（約130m²）に、エスベックミックの緑化システム「エスモス」を用いた緑化屋根（積水ハウス株式会社と共同開発中）が採用されました。

「エスモス」は土壌を必要とせず乾燥に強いスナゴケを使用しており、工場の折半屋根をはじめ、従来緑化が困難であった場所にも使用することができます。そのため、ヒートアイランド現象の緩和や、断熱効果による省エネに寄与するものとして期待されています。

洞爺湖サミットのゼロエミッションハウス
（写真提供：積水ハウス株式会社）

産業省の別館ロビーに完全制御型植物工場のモデル施設が設置・公開されました。

このモデル施設設置を行ったのが、エスベックミックです。同社の植物工場は、温湿度や

光などの植物生育環境を人工的に作りだす最先端の「完全制御型植物工場」として、多くの見学者の注目を集めています。

独自の環境創造技術と植物生育の ノウハウを結集

エスベックミックの強みは、光や温湿度、養液など、植物の生育に必要なさまざまな環境を最適に保つ同社ならではの「環境創造技術」にあります。

エスベックが環境試験事業で長年培ってきた技術に、エスベックミックが積み重ねてきた植

物の育成に関するノウハウをプラスして、効率性の高い植物工場を実現します。

また同社は、ライトや空調など、植物工場の要素となる製品のメーカーではないため、最も適した部材を自由に選定できることも、大きなアドバンテージの一つとなっています。

コンテナ式やプラントセラーなど 多彩なシステムを開発

エスベックミックでは植物工場をより身近で活用しやすいものにしていくために、大規模な「工場」だけでなく、輸送用のコンテナを再利用した「コンテナ式」や、レストランやスーパーなど店舗にも気軽に設置できる小規模のもの、さらに今後は、ワインセラーのような「プラントセ

ラー」の発売を予定するなど、お客さまのニーズに合わせたさまざまなタイプをご用意しています。こうした同社の強みを活かした多彩なシステムの開発により、潜在ニーズの発掘や新たな市場創造に向けた取組みを進めています。



店舗などに手軽に置ける
室内栽培用ミニ野菜工場「プラントセラー」



東京恵比寿のレストラン「農家の台所」は、エスベックミックの植物工場を店内に設置し、話題を集めています。

■エスベックミック株式会社

水と緑の環境エンジニアリング

環境や自然をイメージで語らず、生態学的観点から研究。「水と緑の環境エンジニアリング」により、「本物の自然」をつくっています。

URL <http://www.especmic.co.jp>

本社 〒480-0138 愛知県丹羽郡
大口町大御堂1丁目233-1
TEL:0587-95-6369
FAX:0587-95-4833

大阪 〒572-0039 大阪府寝屋川市
オフィス 池田3-11-17
TEL:072-801-7805
FAX:072-801-7806

東京 〒274-0824 千葉県船橋市
オフィス 前原東2-10-3-A号室
TEL:047-403-5690
FAX:047-474-6719

福岡 〒812-0006 福岡市博多区
出張所 上牟田1-28-16 コスモブレインビルE室
TEL:092-471-0932
FAX:092-474-3500

CSR活動の2008年度実績

エスベックは、自社のCSRに関する重要項目を「経営・マネジメント」「社会性パフォーマンス」「環境パフォーマンス」の3項目に分類し、管理・推進しています。「経営・マネジメント」の特徴は、企業としての価値観や行動原則・行動基準などを単に定めるだけでなく、経営トップから従業員までが共有化していることにあります。

「経営・マネジメント」を基盤として、ステークホルダー・エンゲージメント、環境活動の大きく2つのCSRの実践につなげています。

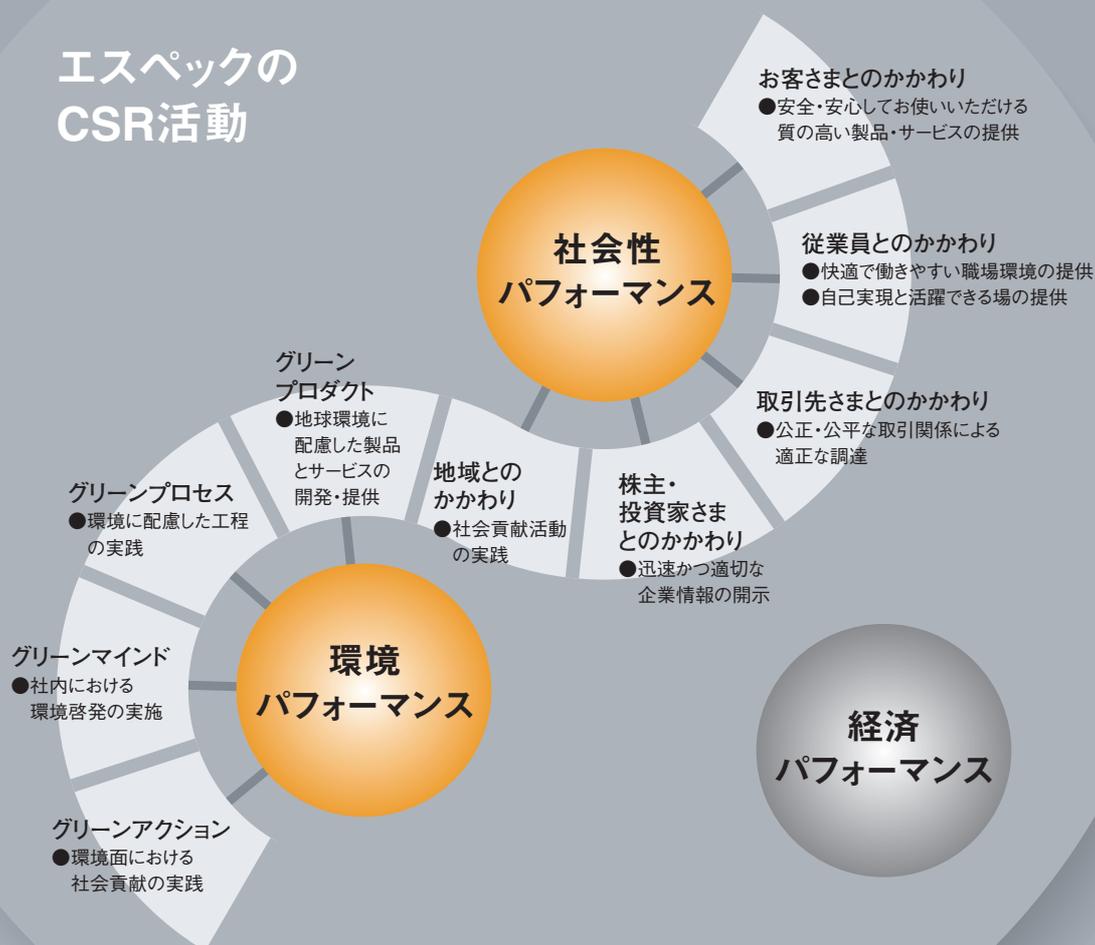
項目	目的	2008年度の主な取組み	掲載・関連ページ
経営・マネジメント	THE ESPEC MIND ・企業理念の日常化と浸透	■企業理念のさらなる理解・浸透に向けた新たな研修プログラムの実施	17
	CSR経営 ・社会性・透明性・効率性の高い経営体制の構築	■経営の意思決定と業務執行の迅速化に向けたコーポレートガバナンス体制の強化(2009年4月)	18
		■内部統制評価部門の設置、および内部統制の運用評価の実施 ■反社会的勢力への対応統括部門の設置、および不当要求防止責任者の設定	19
社会性パフォーマンス	お客さまとのかかわり ・安全・安心してお使いいただける質の高い製品・サービスの提供	■QMC (Quality Management Circle) 活動の実施	21
		■コールセンターサービスの対象範囲拡大などによるカスタマーセンターの機能強化	
		■カスタム製品対応部門の設置	9-10・22
		■「信頼性ソリューションフォーラム2008」の開催	22
		■顧客満足度調査の実施	
	従業員とのかかわり ・快適で働きやすい職場環境の提供 ・自己実現と活躍できる場の提供	■メンタルヘルスケアWEB相談窓口の開設	24
		■メンター制度の導入・実施	25
		■社内業績説明会の開催(2009年6月) ■社長メッセージの社内ホームページへの定期掲載	
	取引先さまとのかかわり ・公正・公平な取引関係による適正な調達	■下請代金法チェックリストに基づく内部監査の実施	26
		■資材調達におけるBCM(事業継続マネジメント)の実施	
		■エスベック優秀取引先表彰の実施 ■「エスベックグリーン調達基準書」の見直し、およびグリーン調達取引先の認定拡大	
	株主・投資家さまとのかかわり ・迅速かつ適切な企業情報の開示	■機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会の開催	27
		■個人投資家向け会社説明会の開催	27-28
		■IRサイトのセミリニューアルなどIRツールの充実(2009年4月)	
		■株主・投資家さまアンケートの実施、および株主通信による集計結果の報告	28
地域とのかかわり ・社会貢献活動の実践	■災害復興支援の実施	29	
	■公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」による資金援助の実施。助成対象範囲の拡大および助成金の増額		
	■職業体験学習・社会工場見学の受け入れ ■地域清掃活動の実施		
環境パフォーマンス	環境への取組み ・地球温暖化の防止・資源循環・有害物質削減・社会貢献 ・環境マネジメント活動、製品・サービスの改善	■重点テーマ別委員会の設置および目標達成責任者の設定	32
		■環境中期計画の見直しによる「エスベック2012グリーンプラン」の策定	34
		■環境配慮製品の開発および拡販	11-12・35
		■「環境配慮開発設計ガイドライン」の全面改訂	
		■製品における環境効率指標「Eファクター」の立案	11-12・37
		■環境配慮製品への環境ラベル表示(グリーンプロダクトラベル認定制度)の開始(2009年4月)	
		■広域認定制度に基づく製品リサイクルサービスの本格運用の開始(2009年4月)	11-12・38-39
		■ゼロエミッションの推進と定義の見直し(2009年4月)	38
		■「環境ニュース」の定期発行	40
		■全社環境大会の開催	
		■ソーラーカー・ラリーへの参戦	41
■グリーンカーテン育成活動の実施			
■「エスベックエコチャレンジファミリー制度」の運用	42		

Management

経営・マネジメント

エスペックは、社会に価値を提供し続ける企業であるために、エスペックの価値観を体系的にまとめた「THE ESPEC MIND」において、私たち全員が尊重すべき事柄として「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」を定めるとともに、「良き社会の一員」として存在することを宣言しています。私たちはこの「THE ESPEC MIND」に基づき、CSR活動を進めることで、企業価値の向上に取り組んでいます。

エスペックの CSR活動

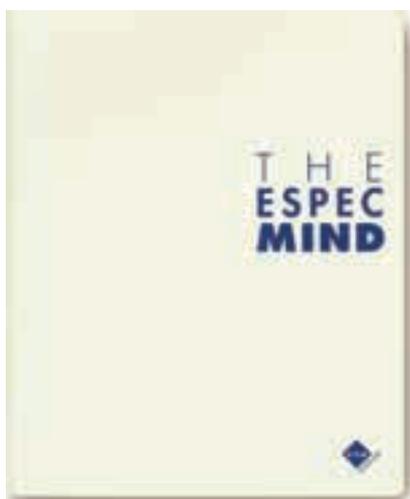


THE ESPEC MIND

エスベックは創業当時から脈々と伝わる価値観を体系的にまとめた「THE ESPEC MIND」を、あらゆる意思決定や活動の指針として、企業活動を行っています。
また、この思想をベースに、エスベックに所属するすべての役員・従業員に適用する企業行動原則と行動基準を明記した「エスベック行動憲章・行動規範」の遵守および実践に取り組んでいます。

● 企業理念の日常化と浸透

「THE ESPEC MIND」の日常化とエスベックアイデンティティの浸透により、企業文化の良質化に努めています。



「THE ESPEC MIND」

創業当時から脈々と伝わるエスベックの価値観を体系的にまとめ、あらゆる意思決定や活動のよりどころとなる「THE ESPEC MIND」を制定しています。この「THE ESPEC MIND」の思想の中心は、エスベックが「社会に価値を提供し続ける存在」でなければならないというものであり、そのなかの「宣言」では、経営において私たち全員が尊重すべき事柄として、「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」の5つを挙げ、その実践を誓うとともに、エスベックが「良き社会の一員」として存在することを宣言しています。

また、この「THE ESPEC MIND」の思想をベースに、エスベックに所属するすべての役員・従業員に適用する企業行動原則と行動基準を具体的に明記した「エスベック行動憲章・行動規範」を制定しています。この行動憲章・行動規範を一人ひとりが遵守し、積極的に実践することで、CSRのさらなる向上を図っていきたく考えています。

2008年度は、「THE ESPEC MIND」のさらなる理解・浸透を目的に、30歳以下の若手社員ならびに役員推薦による選抜者を対象とした新たな研修プログラムを行いました。

今後も「THE ESPEC MIND」の日常化とエスベックアイデンティティの浸透を図り、企業文化の良質化に取り組めます。

エスベック行動憲章

社会貢献活動の実践

よき社会の一員として、より健全で豊かな社会の実現に向け、積極的に社会貢献活動を行います。

法令・企業倫理の遵守

一人ひとりが、事業を展開する国や地域の法令、社会規範、企業倫理を遵守し、誠実に業務を行うよう努めます。

文化の尊重

事業を展開する国や地域の文化、社会規範を尊重するとともに、企業文化の良質化に継続的に取り組めます。

人権の尊重

基本的人権を尊重し、社内外において、性別・年齢・国籍・人種・民族・宗教・信条・社会的身分・障がい等による差別的取扱、言動は一切行いません。

地球環境保護・保全・改善への貢献

環境保護・保全・改善は企業経営の最重要課題のひとつであると認識し、あらゆる国や地域において、自主的かつ積極的に環境保全活動に取り組めます。

お客様の信頼と満足の追求

すべての企業活動において、お客様の視点に立った活動を行い、お客様の信頼と満足を追求します。

職場環境の維持・向上

労働安全衛生に関する法令や社内規定等を遵守し、従業員の安全・健康に配慮した快適で働きやすい職場環境の維持・向上に努めます。

適切な情報の開示

あらゆるステークホルダーのみなさまに対して、正確な企業情報を誠実、公平かつタイムリーに提供し、実直なアカウンタビリティを実践します。

エスベック行動憲章・行動規範の啓発・教育

あらゆる機会を創出して、エスベックの行動憲章・行動規範の啓発と教育を行い、社内への周知徹底を図ります。

CSR経営

エスベックは「社会の公器」として、ステークホルダーのみなさまとより高い価値を交換し合い、互いにとってより良い関係を築く「価値交換性の高い企業」を目指しています。

この基本的な考え方のもと、継続してコーポレートガバナンスおよびリスクマネジメントの強化、コンプライアンスの確保に取り組むことで、より社会性・透明性・効率性の高い経営体制の確立に努めています。

●コーポレートガバナンス

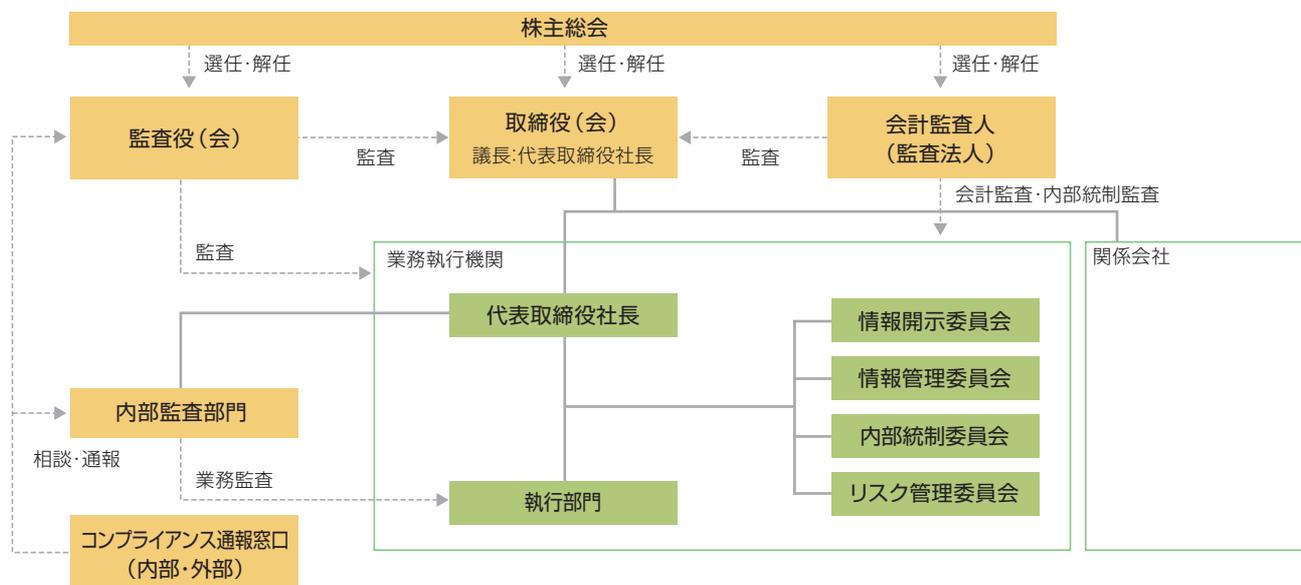
「価値交換性の高い企業」を目指し、継続的にコーポレートガバナンスの強化・充実に取り組んでいます。

基本的な考え方

企業は人々のさまざまな願いや社会の期待に応えるための役割や機能を果たす社会的な装置であるという「企業は公器」との考えのもと、ステークホルダーのみなさまとより良い関係を築き、それぞれに対する価値交換性を高め、責任を果たしていくことが社

会的使命であると考えています。この基本的考えを踏まえて事業活動を行うにあたり、コーポレートガバナンス（企業統治）の確立は不可欠であり、コンプライアンス（法令遵守）の確保と、より社会性・透明性・効率性の高い経営体制の確立を目指しています。

■コーポレートガバナンス体制



●リスクマネジメント

企業リスクの最小化や内部統制システムの構築など、リスクマネジメントの強化を推進しています。

リスク管理の強化

当社では、2006年度よりリスク管理委員会を設置しています。全社的なリスクの識別・評価については、所管部門や検討部会で実施し、その結果をリスク管理委員会で審議・承認します。

個別リスクについては、関連諸規定・付議基準に基づき取締役会や関連会議体で評価したうえで対応を検討・決定し、所管部門でその対応を行います。

また、事象が発生した場合には、「危機対応規定」に基づき適切・迅速に対応します。

情報管理・開示体制

情報管理体制については、情報セキュリティの確保と情報の有効活用を目的に、情報管理規定として「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ管理規定」「個人情報保護規定」を制定するとともに、情報管理委員会を設置しています。

情報開示体制については、適時適切な開示および充実化を目的として、「情報開示規定」を制定するとともに、情報開示委員会を設置し、任意開示情報も含め適切に開示しています。

内部統制システムの構築・運用

内部統制に関する基本方針として、意思決定および業務執行が、法令・定款・社内規定を遵守し適正に行われるために必要な体制・制度を整備し、その運営状況のチェックと自浄機能が働く社内システムを構築・維持することで、社会やステークホルダーのみなさまに信頼される会社であり続けることを定めています。

2008年度は、「内部統制委員会」による内部統制の整備・運用を進めるとともに、社

長直轄の内部統制評価部門を新設し、内部統制の運用評価を実施しました。

なお、外部監査において、内部統制の運用評価は適切で、不備・重要な欠陥がない旨の監査結果を得ています。

反社会的勢力排除に向けて

「エスベック行動規範」において、反社会的勢力排除に向けた基本方針として、社会の秩序や安全の維持に脅威を与え、健全な経済活動を阻害する反社会的勢力や団体

には毅然とした態度で臨み一切の関わりを持たず、不当な要求を受けた場合も金銭等による妥協をしないことを定めています。

2008年4月には、対応統括部門および不当要求防止責任者を設置するとともに、外部専門組織との連携体制を構築しました。さらに、具体的な対応方法を定めた「反社会的勢力対応マニュアル」を策定し、これにより社内への理解・浸透を図っています。

● **コンプライアンス**

コンプライアンスの啓発と、不正行為等の未然防止および早期発見・解決に取り組んでいます。

「エスベック行動憲章・行動規範」の浸透・周知徹底

「エスベック行動憲章・行動規範」の社内への浸透・周知徹底を図るため、ホームページのCSRサイトに掲載し、社内外に公表するとともに、研修の実施や常時携帯するための小冊子を配布しています。



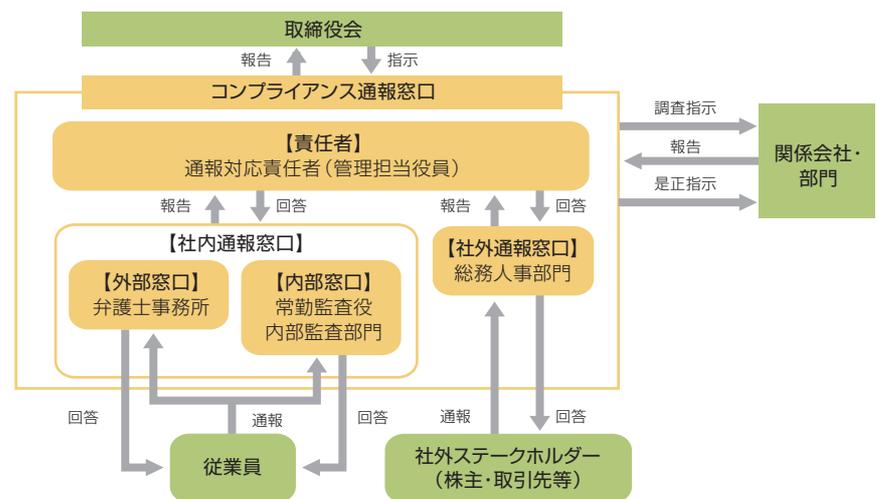
「エスベック行動憲章・行動規範」小冊子

コンプライアンス通報窓口の設置

「コンプライアンス通報規定」を制定し、当社社員はもとより、お客さまや取引先さまなど社外の方からも広く通報を受けるコンプライアンス通報窓口を社内外に設置しています。通報内容については、通報者のプライバシー保護のため、窓口・調査関係者以外には秘

密を厳守します。また、脅迫など不正な目的で通報が行われた場合を除き、通報を行ったことを理由とする本人への不利益な取扱いは一切行いません。この取組みにより、不正行為等の未然防止および早期発見・解決を図り、コンプライアンス体制のさらなる強化に努めています。

■ **コンプライアンス通報制度体制**



HOT VOICE

【新型インフルエンザへの対応】

新型インフルエンザに対し、状況に応じた柔軟な対策を実施しました。

今年4月から5月の関西を中心とした新型インフルエンザの感染拡大は、関西に多くの事業所を持つ当社にとって、緊張を強いられる事態となりました。

製品の製造・販売をはじめ、保守・サービスも行っている当社で感染が広がれば、お客さまの業務に支障をきたす恐れがあることから、当社では、政府の指針に沿った対応マニュアルを策定していました。しかし今回の流行は、政府が想定していた状況と異なり、指針が実情にそぐわない部分もあったため、マニュアルをそのまま適用するのではなく、状況を注視しながら柔軟に対応する必要がありました。そのような中、対応に若干の遅れが生じてしまったことは反省すべき点であり、今後の課題であると認識しています。

この問題は、一過性のものではなく常に存在するリスクとして、今後も準備を整えておく必要があると感じています。



総務人事部 総務グループ マネージャー **西野 哲次**

Social Performance

社会性パフォーマンス

私たちは、お客さま、従業員、株主さまをはじめとするステークホルダーのみなさまに、心からご満足いただくこと。そして、その輪を広げいくことが企業価値の向上につながると考えています。今後もエスペックは、質の高い製品・サービスの提供など、さまざまな活動を通じて、ステークホルダーのみなさまとのより良い関係づくりに取り組んでいきます。



21 お客さまとのかかわり

23 従業員とのかかわり

26 取引先さまとのかかわり

27 株主・投資家さまとのかかわり

29 地域とのかかわり

お客さまとのかかわり

エスベックは「エスベック行動憲章」において、お客さまの視点に立った活動により、お客さまの信頼と満足を追求することを定めています。「エスベック行動規範」においても、「信頼性の高いモノづくり」を掲げ、お客さまへの良質な製品・サービスの提供に取り組んでいます。

●製品・サービスの品質保証

「品質革新と品質再生」を基本方針に、製品とサービスの品質向上に取り組みました。

品質方針

エスベックは、お客さまが品質保証活動で使用される環境試験器を提供しており、当社製品のクオリティがそのままお客さまの製品のクオリティに直結していること、また、その重責を担っていることに、エスベックの存在意義があると考えています。当社は、「お客さまへ安全、快適、確実に使命をはたす、より確かな製品とサービスの提供」を品質方針として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質製品の実現に向けて取り組んでいます。

品質保証体制

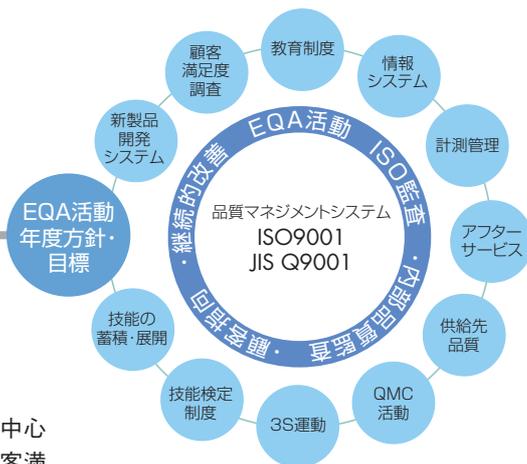
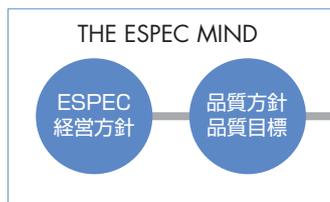
企業のグローバル化に対応すべく、国内外においてEQA (ESPEC Quality Assurance) と呼ばれる独自の品質保証体制を確立しています。

また、1993年に国内他社に先駆けて品質国際規格「ISO9001」を取得し、その後2008年改定版に適合するなど、品質保証体制の継続的改善を実施し、エスベック製品のさらなる品質向上に努めています。

2008年度は、基本方針に「品質革新と品質再生」を掲げ、品質向上において改革すべきことと引続き守るべきことを明確に見極めたうえで、特に製品品質とお客さま対応力の側面からその向上に取り組みました。

エスベックは、質の高い製品の提供と国際レベルでの品質保証体制により、お客さまの信頼・要望にお応えしています。

■エスベック品質保証体系



QMC活動

2006年度より、これまで生産現場を中心としたQC活動を、日常業務の中から顧客満足向上・付加価値創造の実現を目指す「小集団活動」へと転換し、QMC (Quality Management Circle) 活動として実施しています。QMC活動は、生産部門だけでなく、営業・スタッフ部門から開発部門までを対象とした全員参加型の小集団活動であり、「全てはお客さまのために」という視点で、全社をあげて取り組んでいます。

2008年度は150チームがさまざまなテーマで改善活動に取り組み、品質改善やコスト削減、業務効率の向上など大変高い成果を得ることができました。

クリーンサービス活動

毎年新入社員研修の一環としてお客さまの要望調査および製品の無償簡易点検・清掃活動(クリーンサービス)を実施しており、お客さまから高い評価をいただいています。

2008年度は東京、さいたま、名古屋、大阪の4拠点で約1ヶ月間実施しました。この成果を社内発表会で報告し、各担当部門へフィードバックすることで、お客さまの声を反映させた製品・サービスの提供に努めています。



クリーンサービス社内発表会

●カスタマーサポート

製品突発故障の約80%を1日以内に修理完了するなど、お客さまへの迅速なサービス対応を行っています。

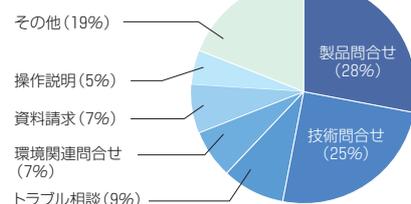
カスタマーセンター

全国のお客さまや代理店さまのお問合せにダイレクトにお応えするカスタマーセンターを設置しています。2008年度は、お客さまのお問合せにお応えするコールセンターサービスの対象範囲を、海外のお客さまにも一部

拡大するなど、サービス強化に取り組みました。また、回答にかかる所要時間の短縮や内容の正確性、受け答えの丁寧さの維持にも取り組んでいます。

2008年度は、製品仕様や技術問合せ、資料請求など、約10,800件について対応しました。

■2008年度 お問合せ内容 (総数: 10,778件)



加えて、代理店さま向けの専用ホームページコンテンツを定期更新する体制を整えるとともに、WEBによる代理店さま満足度アンケート調査を実施し、多くの貴重なご意見・評価をいただきました。

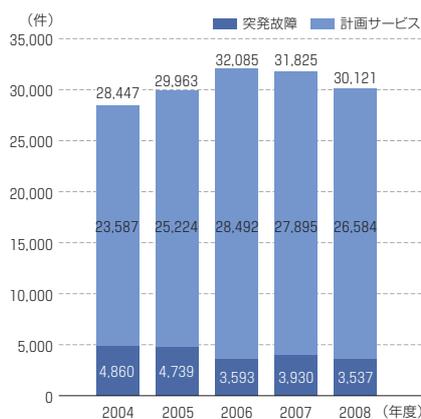
アフターサービス体制

研究開発や生産工程においてご使用いただいているエスベック製品は、どんな些細なトラブルもお客さまの貴重な時間やコストのロスにつながりかねません。そのため、エスベックでは、全国に21拠点のサービスネットワークを構築。フィールドでのサービスデータに基づいた最適な予防保全活動で故障防止に努めるとともに、24時間フルタイムの技術対応サービスを行うなど、お客さまの故障に対して迅速に対応し、安心・安全をお届けしています。

また、サービスマンに対する満足度について、アンケート調査・分析を毎年行っており、2008年度は「訪問時間」や「対応スピード」などの項目において高い評価をいただきました。この結果をもとに、サービスマンの教育や管理者による現場監査を行うなど、アフターサービスの向上に役立てています。

エスベックでは、製品突発故障時の修理対応速度として、1日以内完了80%を目標（2008年度実績77%）に、これからも迅速なサービス対応に取り組んでいきます。

■サービス処理件数



●お客さまへのソリューション提供

お客さまの課題解決に役立つ 付加価値情報の提供を行っています。

カスタム対応の強化

自動車、バッテリー、エネルギーなど技術革新の著しい成長分野をターゲット市場と位置づけ、これらの市場におけるカスタム対応を強化することで、最先端ニーズをいち早くキャッチし、それらのニーズにお応えする製品の開発を目指しています。

2008年度は、カスタム製品における設計機能を強化するとともに、専任営業部門を設置し、顧客対応力の強化に取り組ましました。

付加価値情報の提供

お客さまの信頼性試験における課題解決や技術開発に有益な情報をご提供する活動

に取り組んでいます。2008年11月には、東京と大阪において、「信頼性ソリューションフォーラム2008」を開催し、総勢約250名の方々にご参加をいただきました。

今後もこうした活動を通して、お客さまへの付加価値情報の提供を推進していきます。



信頼性ソリューションフォーラム

●顧客満足度向上に向けて

お客さまからのさまざまな意見・評価をもとに 製品・サービスのさらなる質の向上・改善に 取り組んでいます。

顧客満足度調査

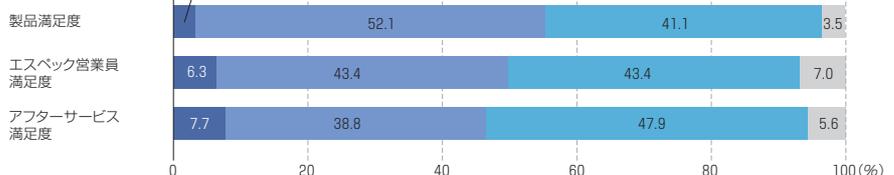
お客さまの当社に対する評価を的確に把握するために、毎年、アンケート形式による顧客満足度調査を実施しています。2008年度は、前年度に当社製品をご購入いただいた1,000名のお客さまを対象に実施し、321名（有効回答率32%）と多くの方々からご回

答をいただきました。

アンケートを通じていただいた、お客さま一人ひとりのご意見・評価に真摯に耳を傾け、みなさまにご満足いただける製品・サービスの提供を目指して、さらなる質の向上・改善に取り組んでいきます。

■顧客満足度（2008年度調査）

【エスベックに対する満足度】



HOT VOICE

【信頼性ソリューションフォーラムの開催】

これからもお客さまのより良いものづくりをサポートします。

「エスベック信頼性ソリューションフォーラム2008」では、カーエレクトロニクス市場における信頼性課題と故障現象に基づいた評価方法をテーマに講演を企画しました。特に、昨今課題となっているウイスカや振動試験方法に絞ったご紹介をすることで、お客さまの技術課題についてともに考えていく場としました。また同時に、自動車に搭載されている電子部品が、この20年間で急速に小型化・高密度化している様子を目で見えていただくために、実物展示を行うなど工夫を凝らしました。こうした取組みの甲斐あってか、当日ご来場された方々から参考になったとの声を多数いただきました。

これからもこのような付加価値情報や製品・サービスを、お客さまに一つでも多く、丁寧にご提供していくことで、お客さまのより良いものづくりをサポートしていくことが大事な使命であると強く感じました。

ソリューション開発部 テストソリューション開発グループ 青木 雄一



従業員とのかかわり

エスベックは「エスベック行動憲章」において、基本的人権を尊重し、差別的取扱・言動を一切行わない旨を定めるとともに、「エスベック行動規範」においても、プライバシーの保護や雇用における機会均等、人権侵害行為等への対処などを明記し、役員・従業員の行動原則・行動基準として、周知徹底を図っています。

また、自己実現と働きがいのある人事制度、および高い生産性と品格を兼ね備えた良質な人材の開発・育成に取り組んでいます。

●多様性の尊重

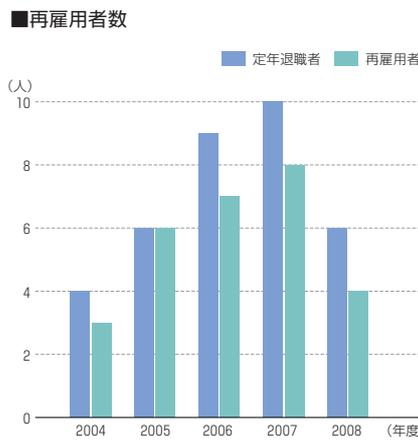
年齢や性別など社員一人ひとりの多様性を尊重した職場づくりに取り組んでいます。

定年退職者の再雇用

全社員を対象とした定年退職者の再雇用制度を導入し、公的年金の支給開始年齢の引き上げに合わせ、段階的に65歳までの雇用を確保するようにしています。現在まで希望者については、ほぼ全員を再雇用しています。

障がい者の雇用

エスベックでは障がいのある方が8名勤務しています(2009年3月末現在)。障がいのある方を、その能力や適性に応じてできるだけ多く雇用できるように、今後も継続して職場環境の改善や職務の見直しなどに取り組みます。



女性の管理職登用

管理職は男性が140名、女性が4名です(2009年4月1日現在)。女性管理職比率は約3%ではありますが、管理職に登用する条件については、男女雇用機会均等法を遵守し、性別による格差は一切設けていません。そのため、少しずつではありますが、管理職を目指す女性の数が増加傾向にあります。

女性管理職の増加が女性社員の士気向上と組織の活性化につながるよう、計画的な育成と登用を行っていきます。

今後も社員一人ひとりの多様性を尊重した職場づくりに継続的に取り組んでいきます。

●人事方針・制度

「役割と成果」「選択と自己責任」を機軸とした、自己実現と働きがいを創出する人事制度の構築に努めています。

人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり、「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。社員が働いて、楽しいエキサイティングな会社でありたい。社員が主役の会社でありたい。というのが基本的な考え方です。

また、高い生産性と品格を兼ね備え、チャレンジ精神に富む良質な人材の開発・育成に取り組むことで、「社員能力・活力の最大化」を目指していきます。

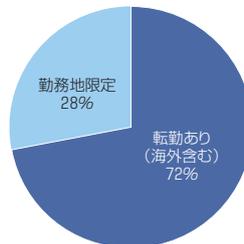
自己実現と働きがいを創出する人事制度

エスベックは「役割・成果主義」および「選択と自己責任」の2つを機軸として、役割と成果に応じた、メリハリと透明性・公平性のある処遇システムにより、一人ひとりの「自己実現」を可能にする、「働きがい」のある人事制度の構築に努めています。

コース選択制度(勤務地限定選択制度)

家庭の事情や価値観・労働観により異動を限定的にすることを望む社員に対し、勤務地限定の選択肢を付与する制度です。

コース選択制度(勤務地限定選択制度) 選択状況



(2009年3月末現在)

社内公募制度

新規事業や戦略プロジェクトの立ち上げに際し、ミッションの内容や求める人材像、応募資格を社内ホームページに公示し、参画を希望する社員を広く募集する制度です。

社内公募制度 実績

	募集人数	応募人数	登用人数
利用者数	55名	68名	28名

(2002年~2008年度 制度実施計9回)

今後も社員一人ひとりがより働きがいを感ずることができる人事制度を目指し、さらなる改善・改革に取り組んでいきます。

コミットメントセッション(目標管理面談)の実施

全社員を対象とした目標管理面談「コミットメントセッション」を定期的実施しています。コミットメントセッションでは、社員一人ひとりの目標設定や業務上の課題、今後のキャリアビジョンなどについて、本人と上司が話し合いを行っています。この面談を通じて、部門におけるベクトル合わせ、およびコミュニケーションの円滑化を図っています。

●快適な職場環境づくり

社員の安全・健康に配慮した 快適で働きやすい職場環境の維持・向上に取り組んでいます。

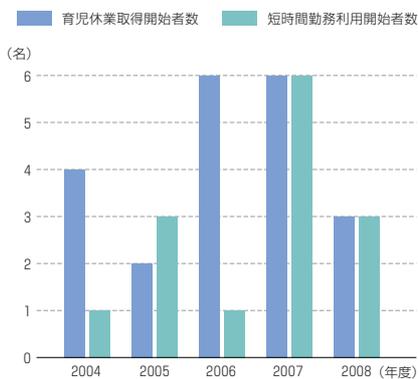
ワーク・ライフ・バランス マネジメント

2006年度より改正労働安全衛生法を拡大適用し、単月の時間外労働時間が80時間を超える社員に対しては、医師による面接指導を義務づけています。

また、家庭と仕事のバランスを考慮し、有給休暇計画取得制度やフレックスタイム制度の運用を行っています。

さらに、次世代育成支援策の一環として、子供を養育する社員が家庭と会社を両立できるように、正社員だけでなく契約社員やパート社員においても育児休業や短時間勤務制度の活用を推進しています。2008年3月末までに延べ55名の社員が育児休業を取得し、延べ25名が育児短時間勤務を選択しています。

■育児休業・短時間勤務制度利用者数



セクハラ・差別行為に関する 連絡・相談窓口

セクハラやその他の差別待遇・いやがらせ行為等について、社員からの連絡・相談を受け付ける窓口を設置しています。本窓口では、男性・女性それぞれ1名ずつ担当者を設けています。

メンタルヘルスケアの推進

近年社会的に増加している心の健康問題への対策として、社員とその家族を対象としたメンタルヘルスケア制度を導入しています。WEB上のストレス診断で、毎月自己の状況を確認するほか、eラーニングによるメンタル知識の向上を図り、自己予防を推進しています。

また、電話と面接による相談窓口を設置しており、2008年4月からはWEB窓口も新たに開設しました。

ストレス診断の実施結果は、組織単位で分析・把握し、管理職向けの研修を実施するなど、快適な職場環境づくりに向けた取組みへとつなげています。

さらに、退職後の復職時についても専門家のアドバイスを交えた支援を行うなど、うつ病などの心の健康問題の予防・早期発見に努めるとともに、発症時の専門的ケアを行っています。



メンタルヘルスケア支援サイト

安全衛生活動

安全衛生活動を遂行するうえで関連するあらゆる法令を遵守することはもとより、「安全衛生管理規定」に基づく運用や倫理的な見地を重視した自主的な取組みを推進しています。

その一環として、主要事業所ごとに安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなど、労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。

また、交通事故防止の対策として、安全運転適性検査の実施や安全運転講習会などの啓発活動により交通事故の撲滅に取り組んでいます。

2008年度の 에스ベックにおける労働災害の発生件数は、0件（製造業平均：1.12件/百万時間）で、連続無災害日数（不休労災を除く）は、1,342日となりました（2009年3月末現在）。

■安全衛生活動の目標と実績

目標項目	目標	2006年度	2007年度	2008年度
労働災害（不休災害を除く）	0件	0件	0件	0件
健康診断受診率	100%	99%	98%	99%
車、バイク、自転車による人身事故	0件	8件	4件	8件
車およびバイクによる自責事故	0件	35件	30件	23件

社会問題となったアスベストへの対応については、全事業所のアスベスト使用状況と飛散性アスベスト使用箇所の飛散対策実施の調査・確認を行うとともに、以前製品に使用していたアスベスト含有断熱材の加工作業者を対象に、毎年特殊健康診断を実施※しています。

※現在まで診断結果にアスベストに起因する所見はありませんでした。

3S・挨拶運動

エスベックでは、福知山工場において2003年度から3S（整理・整頓・清掃）と挨拶を推進する運動をスタートし、順次、対象となる事業所を広げ、現在では、主要事業所において継続的に活動を推進しています。社員自らのアイデアや工夫によって、効率的で働きやすい職場環境を目指しています。



出勤時の挨拶運動

福利厚生充実

選択型福利厚生制度「カフェテリアプラン」

社員の多様なニーズへの対応や、より公平性のある福利厚生サービスの提供を目的として、2007年度から自身で必要な福利厚生サービスを選択することのできる制度「カフェテリアプラン」を導入しています。この制度により、育児や介護、学習、スポーツ、旅行、グルメなど多様なメニューから割引サービス等を受けることができます。

資産形成の支援

財産形成貯蓄制度では、社員の年間積立額の2%を奨励金として会社より支給しています。また、従業員持株会では、会員の拠出金に対して7%の奨励金を会社より支給するなど社員の資産形成を支援しています。

●人材開発

社員のキャリア形成と能力開発を体系的に支援する教育体制と研修制度の構築を推進しています。

人材開発

人材開発の基本は、社員の自ら学ぶ意志に基づく能力開発にあります。社員の学ぶ意志を尊重し、その実現に必要な教育機会の提供や制度整備などの支援を積極的に行います。そして、社員の自己実現に向けたニーズと会社として求める人材像の両方を満たす人材開発を目指しています。

教育プログラム

能力開発の指針として、職位や職能において必要とする能力を「求める人材像とスキルマップ」として明確に定義し、その習得と向上を図る教育プログラムを運用しています。この教育プログラムは人材開発委員会において、継続的に見直しを行い内容の改善を図っています。あわせて、公認資格取得を支援する「推奨資格取得支援制度」や語学向上を目的とする「外国語学習支援制度」を導入するなど、教育機会の提供だけでなく費用面で

の支援の充実に努めています。

2008年度は、すべての職能に共通する教育として30講座を開催し、延べ677名が受講しました(新入社員・中途入社者教育を除く)。

※2009年度は一部活動を休止しています。

■教育体系の概要



●従業員とのコミュニケーション

会社と従業員の双方向のコミュニケーションにより、良好な労使関係の構築に取り組んでいます。

社内業績説明会

エスベックでは、会社と従業員の双方向のコミュニケーションを重視し、経営を行っています。

2009年度からは、会社の現状についての理解・浸透を目的に、社内業績説明会の定期開催を開始しました。説明会では、業績や今後の課題・戦略などについて社長から説明を行うとともに、質疑応答を行い、社員からの意見・要望を経営層にフィードバックしています。

社長メッセージ

社内ホームページ上に、社長メッセージを定期掲載しています。社長の考えや、戦略の進捗などを全社員にタイムリーかつダイレクトに伝えることで、経営層と現場のベクトル・価値観の共有化を図っています。

労使関係

労働組合はユニオンショップ制をとっており、組合員は715名、組合員比率は80%となっています(2009年3月末現在)。

メンター制度の導入

2008年9月より、豊富な経験・スキルを持った先輩社員(メンター)が、経験の浅い若手社員(メンティー)と対となって、業務指導から精神面のフォローまでを一定期間行うメンター制度を導入しました。これにより、未来を担う人材の能力開発、教育文化の醸成、コミュニケーション能力の向上を図っていきます。

2008年度の対象者は22組44名で、主体性の向上や職場全体のフォロー体制の確立など、さまざまな成果を得ることができました。

エスベックとエスベック労働組合は、労働協約と相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持し、対等の立場でさまざまな労使課題に取り組んでおり、毎月「労使協議会」を開催し、情報・意見交換を行っています。



労使協議会

HOT VOICE

【メンター制度】

メンター制度の活動を通じて、常に業務を改善させていくことの大切さを学びました。

私は、大型環境試験器(恒温恒湿室)の設計業務を担当しています。

メンター制度では、メンター(先輩社員)の指導のもと、業務に直結した技術の勉強と、設計業務における「気づき」をルール化し、共有する業務改善活動に取り組めました。こうした取組みのなかで、常に業務を改善・効率化させていくことの大切さを学びました。また、日々の業務がうまくいかずメンターに叱られたり、逆に褒められたりするなかで、仕事に優先順位をつけながら「時間管理」をしていくことや、上司・メンターに「報連相(報告・連絡・相談)」することの大切さを学びました。

先輩社員と密接に関わることのできるメンター制度は、こうした多くのことを学べるだけでなく、自分自身についても理解してもらえらるとても良い機会になりました。まだまだ目の前の仕事で精一杯ですが、これからも自己啓発と業務改善に取り組む、早くみなさんに信頼される設計者になりたいと思います。



環境試験器設計部 ビルドイン設計2グループ 大杉 太佳司

取引先さまとのかかわり

エスベックは取引先さまと良好なパートナーシップを構築し、相互発展できる関係づくりを重視しています。取引においては、関係法令・法規を遵守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな観点で国内外から必要な資材・サービスを適切な品質・価格・納期・環境への配慮などの視点で、総合的に判断し調達していきます。

●取引先さまとのより良い関係を目指して

コンプライアンスの徹底やBCMの取組みなど、取引先さまとの価値観の共有化と信頼関係の醸成に取り組んでいます。

下請代金法への対応

資材調達において「下請代金支払遅延等防止法（下請代金法）」の遵守を徹底することを目的としたさまざまな取組みを行っています。

2008年度は、社内独自に作成した下請代金法チェックリストに基づく内部監査を3回実施し、懸案事項に対し必要な措置を講じることで、違反行為を未然に防ぐ活動を行いました。

また、購買担当者だけでなく、取引先さまと関わりがある部門・関係会社の方を対象とした下請代金法講習会を2回開催し、法令遵守の必要性を再認識してもらうことで、全社的に下請取引を適正に行える体制の強化に取り組めました。

BCM(事業継続マネジメント)の取組み

地震などの自然災害や取引先さまのトラブルなど不測の事態が生じた場合に、お客さまへのサービス提供の影響を最小限にするための取組みを行っています。

2008年度は、昨年度に引き続き、当社の資産である金型を貸与している取引先さまの現場・現物確認を実施するとともに、実際に部品が製造されている現場の実態調査を行い、不測の事態が生じた場合でも安定調達を行えるよう、必要な詳細情報の収集を実施しました。

「エスベック共栄会」の運営

1981年より取引先さまと当社との相互信頼の構築、および共存共栄を目的とした「エスベック共栄会」を組織しており、41社の取引先さまに参画いただいています（2009年3月末現在）。

2008年度は、経営やコスト戦略について学ぶセミナーや工場見学、QCサークル活動に関する勉強会などを引き続き実施しました。

また、新たな取組みとして、取引先さまと当社購買担当者が気軽に交流するイベントを開催するなど、より良好なパートナーシップの構築を目指し活動を進めています。



エスベック共栄会総会

エスベック優良取引先表彰制度

多大なご協力を賜った取引先さまに対して、感謝の意を表することを目的に、「エスベック優良取引先表彰制度」を導入しています。

2008年度は、社長賞1社・優秀賞2社、そして特別賞として海外取引先さま1社を表彰させていただきました。

グリーン調達

2000年に「エスベックグリーン調達基準書」を制定し、資材調達先に対するグリーン調達を実施しています。グリーン調達取引先の認定基準には「ISO14001」や「エコ・アクション21（環境活動評価プログラム）」の認証取得、またはこれらの簡易版「エスベック・エコ・スタンダード」による環境保全活動の実施を求めており、実現のために講習会・現地指導による活動支援を行っています。

2008年度は「エスベックグリーン調達基準書」の見直しを実施するとともに、さらなるグリーン調達拡大に向けた活動に取り組んできました。その結果、昨年度認定した取引先さま109社に加え、新たに9社の取引先さまをグリーン調達取引先として認定し、当社登録部品点数の80%を占める合計118社が、エスベックグリーン調達取引先の認定基準を満たすことになりました（2009年3月末現在）。



グリーン調達認定式

調達部品の品質改善に向けて

資材部門内に品質専任の担当者を配置するとともに、取引先さまとの定期的な打合せや現場確認を実施し、部品の不良低減・品質改善に向けた進捗管理および指導を行っています。

2008年度は、当社への改善要望について取引先さまにヒアリングし、問題点を共有することで、ともに品質改善に取り組むための新たな体制を構築しました。

HOT VOICE

【調達部品の品質改善に向けて】

取引先さまとともに「おおべや活動」に取り組むことで、製品価値の向上に努めています。

当社では、取引先さまとともに取り組むVE（Value Engineering）活動を「おおべや活動」と呼んでいます。ここでは製品や部品の価値向上を目的に、取引先さまと当社の設計・生産・資材担当者が集まり、現物や図面などを見ながら機能向上やコスト低減のための議論を交わっています。具体的な取組みとしては、まず、取引先さまと一緒に製品を実際に見るなどしてその部品が果たす機能を定義し、その後、メンバー全員で「単純化」や「共通化」、「置換え」などの観点で意見（VE提案）を出し合います。

「おおべや活動」には、「決して他人の意見を批判しない」という約束事があります。そうすることで、多くの意見を引き出して議論を活性化させます。また、専門分野のエキスパートである取引先さまにもご参加いただくことで活動の質を高めるとともに、双方のコミュニケーションによるより良い信頼関係の構築を図っています。

資材部 福知山調達グループ 岡 大豪



株主・投資家さまとのかかわり

エスベックは「良き社会の一員」として、エスベックのあらゆるステークホルダーとのより良い関係の構築（価値交換性の向上）や社会的責任を果たすことを企業理念として掲げています。株主・投資家さまとのコミュニケーションを良好に行うためのIR活動においても、その理念を踏まえ「IRポリシー」として明文化し、活動の規範として周知徹底を図っています。

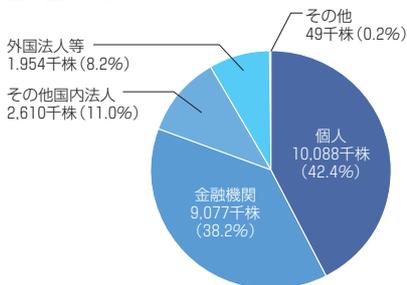
● 株主・投資家さまとのコミュニケーション

迅速かつ適切な情報開示を経営の重要な責務と認識し、良好なコミュニケーションの醸成に努めています。

株主構成

2009年3月末現在の株主構成は、個人株主さまが最も多く、次に金融機関、その他国内法人の順となっています。前年と比べ大きな変化はありませんでしたが、個人株主さまが1.1ポイント増加し、金融機関が1.5ポイント減少しました。

■ 株主構成比



株主数:6,130名

発行済株式数:23,781,394株 (2009年3月末現在)

開かれた株主総会の実現に向けて

株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考え、より多くの株主さまにご出席いただけるよう、集中日を避けて開催しています。2008年度は6月24日に開催し、164名の株主さまにご出席いただきました。



株主総会

機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会

機関投資家・証券アナリストの方を対象とした決算説明会を実施しています。説明会には社長と取締役が出席し、業績や戦略などについて説明しています。

また、個別ミーティングについても東京・大阪を中心に随時行っており、2008年度は約80回実施しました。



決算説明会

個人投資家向け会社説明会

個人投資家さまを対象とした会社説明会も随時実施しています。

2009年2月には、奈良において開催し、当社の事業概要や製品用途、当社の強み、経営戦略などについて社長より説明しました。

参加者アンケートでは、説明会に参加されるまで当社をご存知なかったものの、参加されたことで当社の事業内容や戦略に関心を示してくださった方もおられました。



個人投資家向け会社説明会

情報開示の方針・体制

会社法・金融商品取引法等関係法令、証券取引所の定める適時開示規則等に従って、情報開示を行っています。また、同規則に該当しない情報についても、当社を理解いただくうえで役立つ情報は、積極的かつ公平に情報を開示していきます。

社内体制としては、情報開示委員会を設置し、任意開示情報も含めた開示情報の内容・時期・方法を審議することで、適時適切な情報開示を実施しています。また、情報開示を行う者（IRスポークスマン）を限定することで情報の一元化に努めるとともに、ホームページへのタイムリーな情報掲載により、株主・投資家さまへの公平かつ迅速な情報開示を推進しています。

2008年度は、金融商品取引法に基づく四半期報告制度に対応し、四半期ごとの決算報告を実施しました。

IRツールの充実

株主通信やファクトブック、ホームページのIRサイトなどのIRツールの充実に継続的に取り組んでいます。

IRサイトでは、決算説明会、個人投資家説明会の資料や各種財務データなど、みなさまに当社を理解いただくために役立つ情報を積極的に掲載しており、2009年4月には、見やすさと操作性の向上を目的としてIRサイトのセミリニューアルを行いました。

また、IRサイトに新たな決算情報やニュースリリース、IR資料などを掲載した際に、国内および海外の投資家さまにタイムリーにお知らせする情報配信活動も行っています。

加えて、携帯電話用IRサイトも開設しており、投資家さまの利便性の向上に努めています。

IRサイト

<http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html>



ESベックIRサイト

携帯電話用IRサイト

<http://m-ir.jp/c/6859>



QRコード

カメラつき携帯電話のバーコードリーダーで読み取ると、携帯電話用IRサイトにアクセスできます。

IRサイトに対する社外評価

当社のIRサイトは、大和インベスター・リレーションズ社が主催する「インターネットIRサイト優秀企業賞」を5年連続で受賞しました。また、日興アイ・アール社が主催する「全上場企業ホームページ実態調査」においても、昨年に引き続き、数ある上場企業の中から「最優秀サイト（総合ランキング）」として選定されるなど、社外から非常に高い評価をいただいています。



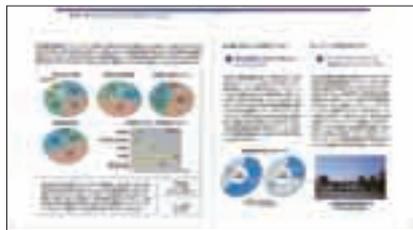
● 経営へのフィードバック

市場からの貴重な意見・評価を経営にフィードバックし、さらなる企業価値の向上に取り組んでいます。

株主・投資家さまアンケート

ESベックは、会社説明会開催時などにおいて投資家さまからご意見をいただくほか、株主通信の送付時にも株主さまを対象としたアンケートを実施しています。また、この株主通信のアンケート結果は、中間株主通信において報告しています。

2008年度は、この中間株主通信における報告記事を従来より拡大し、特集として集計結果をご報告するとともに、株主さまから寄せられたご質問・ご意見とそれらに対する回答を掲載しました。

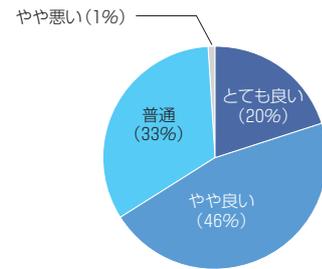


中間株主通信 株主アンケート特集

■株主アンケート結果（2008年6月実施）

ご回答者総数：1,715名（男性：75% 女性：25%）

[株主通信の評価]



市場評価のフィードバック

会社説明会や株主通信送付時に行ったアンケートの分析結果、および個別ミーティングで伺ったご意見などを、「IR月報」としてまとめ、発行しています。この「IR月報」を取締役会で報告し、市場の評価を社内にフィードバックすることで、課題を浮き彫りにし、今後のIR活動や経営の質の向上に努めています。

● 株主さまへの還元

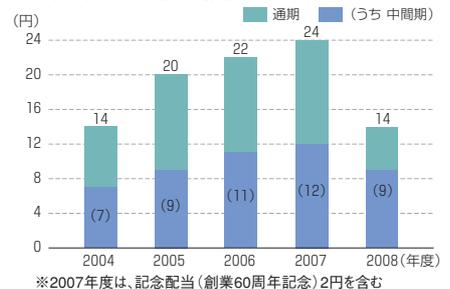
2008年度の業績は当期純損失となったものの、継続性を重視し、株主さまへの配当を実施しました。

株主さまへの還元

ESベックは、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識するとともに、持続的な企業価値の向上が株主価値向上の基本であると考えています。

2008年度の連結業績は当期純損失となりましたが、年間配当金については、継続性を重視し、1株当たり14円を配当いたしました。

■1株当たり配当額の推移



HOT VOICE

【IRサイトの充実】

必要な情報をすぐに探し出せるようにIRサイトのセミリニューアルを行いました。

当社では、迅速かつ公平に情報をお伝えすることができるIRサイトを重要なコミュニケーションツールとして位置づけ、継続して情報の充実・改善に取り組んでいます。2009年4月に行ったIRサイトのセミリニューアルでは、訪れた方が多くの情報の中から必要としている情報をすぐに探し出せるように、サイト構成・ナビゲーションの見直しと、より分かりやすい表記方法への変更を行いました。また、株主さまからの問合せが多かった株式の各種手続きに関する情報も新たに掲載するなど、さらなる情報の充実に取り組みました。

今後もこうした取組みを通じて、当社のIRサイトをより便利で使いやすいものにしていきたいと考えています。

総務人事部 総務グループ 板谷 由里子



地域とのかかわり

エスベックは「良き社会の一員」として、積極的に社会貢献活動に取り組むとともに、一人ひとりがその意義を認識し、社会貢献を重んずる企業風土の醸成に取り組んでいます。また、それぞれの地域における文化や社会規範を尊重し、地域との共生を図ることで、より健全で豊かな社会の実現を目指しています。

● 地域とのコミュニケーション

被災地の復興支援や、公益信託を通じた地球環境の保護・保全など地域との交流・相互理解に取り組んでいます。

災害復興支援の実施

自然災害の発生時における被災者救援と被災地の早期復興を目的として、義援金の寄付活動を行っています。2008年5月に起きたミャンマーの大型サイクロンと中国四川省の大地震では、当社役員、従業員および代理店さまより義援金を募り、会社からの拠出金も合わせ約400万円を、日本赤十字社を通じて寄付しました。

エスベック地球環境研究・技術基金

創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全うする事業として公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」を設置しました。

地球環境保全に関する調査研究や技術開発などに対し、資金援助を実施しており、これまでに94団体に対し、総額4,900万円の助成を行いました。また、2008年度からは、対象範囲を緑化の教育・啓発にも拡大し、助成金も増額しました。

■公益信託 応募・助成件数



職業体験学習・社会工場見学の受け入れ

職業体験学習や社会工場見学の受け入れを行っています。

2008年度は、エスベックミックにおいて、職業体験学習として地元の中学校3校より16名の生徒を受け入れました。職業体験では、働く喜びや大変さの理解、環境保全への意識向上を目的に、植物苗の生産作業や植物生産圃場での維持管理作業などを行っていただきました。また、福知山工場においても、地域のみなさまの社会工場見学を受け入れており、2008年度は、計2件、約80名の方にご見学いただきました。



中学生職業体験学習

ボランティア活動

毎年、大阪府肢体不自由者協会の協力を得て、労働組合の上部団体JAMの主催による社会奉仕活動に社員を派遣しています。この活動は、大阪府全域から肢体の不自由な方々をお招きして、遊園地や水族館、海洋クルーズ等で、安全かつ楽しい一日を過ごし

ていただくための手助けを行うもので、1988年以来、毎年約80名の方を招待しています。ささやかな活動ですが、幅広く市民と協力し合って、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

地域清掃活動

世界環境デーである6月5日を含む1週間を「エスベック環境ウィーク」と定め、事業所周辺の通勤路や近隣公園などで、地域清掃活動を実施しています。2008年度は、全国において延べ671名の従業員が参加し、約2.5tのゴミを回収しました。



地域清掃活動

「子ども110番の家」への協力

子どもを狙う悪質な犯罪を防止するために各地域で行われている「子ども110番の家（ピーポくんの家）」の取組みに、当社も一部の事業所において協力しています。



「子ども110番の家」告知板

HOT VOICE

【義援金寄付活動に対する感謝状】

社会貢献活動を通じ、一人ひとりの社会貢献に対する意識を高めていきたい。

ミャンマーの大型サイクロンと中国四川省の大地震に対する義援金の寄付活動に対して、当社は2009年1月、日本赤十字社より厚生労働大臣感謝状と記念品の贈呈を受けました。これまでも私たちエスベックグループは、スマトラ島沖地震、ジャワ島中部地震、パキスタン北部地震など災害復興支援に微力ながら寄与してまいりましたが、こうした活動が認められたことで、従業員一人ひとりに「社会の一員」であるということが改めて意識されたのではないかと考えています。

今後も、社会や地域のための活動に積極的にに関わり、社会貢献に対し高い意識を持った企業風土の醸成を目指していきたいと思えます。



日本赤十字社からの感謝状



総務人事部 部長 大島 敬二



Environmental Performance

環境パフォーマンス

温暖化や砂漠化などの環境問題が地球レベルで進行しています。環境悪化は人類存続の危機に直結するものであり、次世代のために環境を守ることは、今を生きる私たちの責務となっています。エスペックは「単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである」という環境宣言に基づき、環境保護・保全・改善に取り組んでいます。

31 環境マネジメント

35 グリーンプロダクト（環境に配慮した製品とサービス）

38 グリーンプロセス（環境に配慮した工程）

40 グリーンマインド（環境教育）

41 グリーンアクション（社会貢献）

43 物質フロー

44 実績データ

45 環境会計

環境マネジメント

エスベックでは、環境への取組みを企業経営の最重要課題の一つと位置づけ、継続的に環境マネジメントに取り組んでいます。

第4次環境中期計画「エスベック2012グリーンプラン」(2009年度～2012年度)では、CO₂排出量6%削減(1990年度比)などの目標を掲げ、全社的な取組みを進めています。

環境経営の基本方針

エスベックは、環境宣言「エスベックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはな

らない。いかに環境に役立つか、という視点こそエスベックたるゆえんである」に基づき、真摯に環境保護・保全・改善に取り組んでいます。

1996年4月に、全社環境基本方針を定め、以降世の中の動向、ステークホルダーのみならずさまからの要請、自社の活動実績を踏まえ、改訂を重ねています。

エスベックグループ全社環境基本方針

【環境宣言】

エスベックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役立つか、という視点こそエスベックたるゆえんである。

【基本理念】

エスベックグループは、環境保護・保全・改善が企業経営の最重要課題のひとつであることを認識します。
環境試験装置、電子デバイス装置などを製造、販売及びメンテナンスしている企業グループであることを踏まえ、以下の方針に基づき、地球温暖化の防止、資源循環の促進、ならびに環境への汚染防止に努めるとともに、環境マネジメント活動、製品・サービスの継続的改善を図ります。

【基本方針】

1. 製品のライフサイクル全ての段階において、環境負荷低減と価値の向上を実現する技術と製品及びサービスを開発し、提供します。
2. 省エネルギー活動、自然エネルギーの活用、フロン対策などを通じ地球温暖化防止に努めます。
3. 有害物質管理を行い、環境への汚染防止に努めます。
4. 排出物を削減するとともにお客様に対してリサイクルシステムを提案し、循環型社会の実現に寄与します。
5. 資材調達における環境負荷の低減を徹底するためにグリーン調達を行います。
6. 地球環境保全活動への支援及び積極的参加を通じ、社会の環境保全に貢献します。
7. 従業員とその家族・取引先および市民を対象に環境教育や啓発活動を実施します。
8. 環境関連法規制ならびにグループが同意したその他の要求事項などの遵守はもとより、必要に応じて自主基準を設定し、環境リスクマネジメントに取り組みます。

これらを実現するために、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し活動するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直します。

—この環境方針は組織で働く全ての人に周知するとともに、社外に公表します—

2009年4月1日
エスベック株式会社
代表取締役社長
進 信義

●環境管理推進体制

CO₂削減など重点テーマに応じた委員会体制を新たに設置し、環境マネジメントの強化を図りました。

ISO14001の認証取得

1996年の「環境管理」導入後、事業所単位での環境マネジメント活動と、「ISO14001」認証取得を積み重ね、主要9事業所で活動してきました。また、2003年度からは、環境ガバナンスの強化を図るため、国内グループ5社28事業所による全社一括活動に移行し、2009年度からは、右記(上段)の3社における28事業所で全社一括活動を進めています。加えて、右記(下段)の4社5事業所では、単独で環境マネジメントシステム活動を進めています。



全社一括取得 登録証

■全社一括取得の対象範囲(2009年度は下記3社28事業所が対象)

エスベック株式会社
エスベックエンジニアリング株式会社
エスベックテストセンター株式会社

■単独取得の対象範囲

取得年月日	ISO14001	事業所
2000年 12月 1日	ISO14001	広州愛斯佩克環境仪器有限公司
2003年 3月12日	ISO14001	エスベックテクノ株式会社
2004年 7月 8日	ISO14001	エスベック九州株式会社 大分支社
2004年 8月 4日	ISO14001	エスベック九州株式会社 本社
2005年 4月27日	エコアクション21	エスベックミック株式会社



エスベックテクノ(株) 登録証



エスベック九州(株)本社 登録証



エスベックミック(株) エコアクション21 認証・登録証

全社環境管理委員会

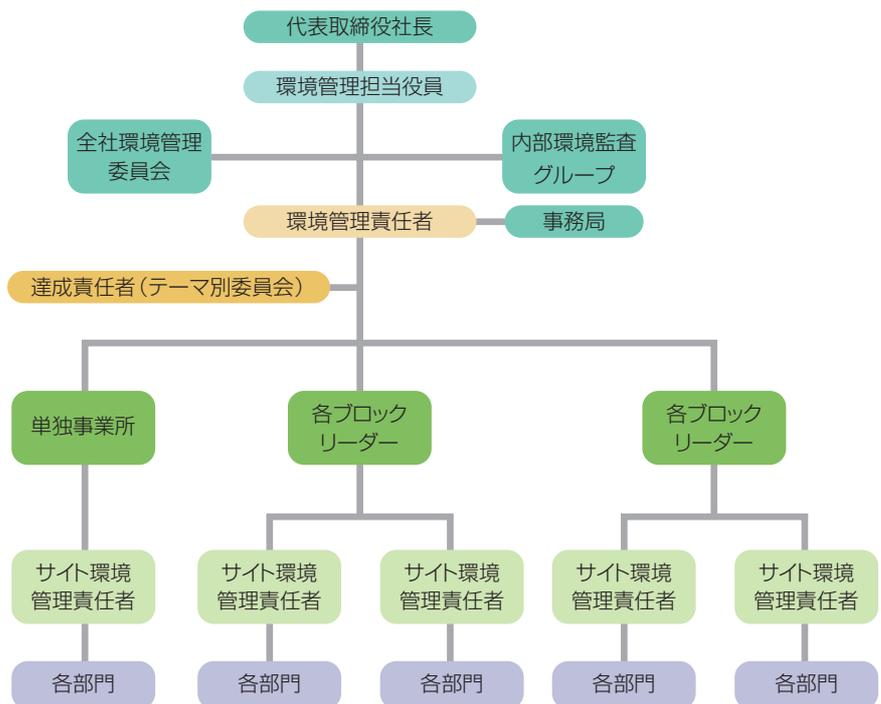
環境マネジメント活動を推進する母体として、1996年4月から全社環境管理委員会を設置しています。委員長には社長、副委員長には環境管理担当役員が就任し、全社共通の目標管理、各種案件の審議などを行っています。ここでの決定が、それぞれの会社、事業所、事業部に展開され、活動が推進されます。

2008年度は、CO₂削減などの重点テーマに応じた5つの委員会体制を設置しました。これら委員会では、それぞれに目標達成責任者を明確に定めるとともに、進捗状況を社内ホームページ上で公開し、全社で情報を共有することで、環境マネジメントの一層の強化を図っています。



全社環境管理委員会

■環境マネジメント活動の組織図(イメージ図)



●環境中期計画

2008年度は目標をほぼ達成することができました。
2009年度からは環境中期計画を見直し、
新たに策定した「エスペック2012グリーンプラン」のもと、
製品・サービスを機軸とした環境経営を推進しています。

■重点テーマにおける2008年度の進捗評価

重点テーマ	「エスペック2010グリーンプラン」2010年度目標値	2008年度の進捗評価
地球温暖化の防止	1990年度比CO ₂ 排出量10%削減	○
資源循環	①ゼロエミッション100% ②使用済み製品回収率50%	○
有害物質削減	①製品:新規開発品のRoHS対応100%完了 ②部品:標準製品群を対象にAランク(社内基準)の市販部品を100%対応	△
社会貢献	社会貢献度200%(2005年度:100ポイントの2倍/独自指標)	○

2008年度 目標・実績

◎:大きな成果 ○:計画に沿った成果 △:計画を下回る、または計画から外れる成果

No.	目的・目標テーマ	2010年度環境目的	2008年度環境目標	実績	評価	重点テーマ	
グリーンプロダクト	1 環境配慮製品開発	・LCA手法を活用し、地球温暖化対策、資源循環対策の環境配慮技術の開発を行います	・LCA手法を活用し、製品価値(品質機能)と環境配慮のバランスを考えた評価指標(Eファクター)の設定を行います ・グリーン技術を具現化(見える化)するために、当社の環境試験器の未來像(グリーンコンセプトモデル)の企画を行います	実施	○	地球温暖化の防止	
	2 環境配慮製品拡販	・環境配慮製品を年間5,000台以上販売します	・環境配慮製品を年間3,800台以上販売します	3,700台	△		
	3 お客さまの声	・お客さま環境満足度の向上を図るため、お客さまの声をフィードバックします	・お客さまから環境に関する声を110件以上収集し、社内へ改善提案として10%以上フィードバックします そのうち、2件を実施件数とします	収集118件 提案 11件	○	有害物質削減	
	4 製品有害物質管理	・新製品におけるRoHS対応100%達成を目指します	・新製品におけるRoHS対応率を90%以上とします ・共通ベース部品(板金、塗装)をRoHS対応品に代替します	65% 実施	△		
グリーンプロセス	5 CO ₂ 削減	・CO ₂ の排出量を1990年度比10%削減します (CO ₂ 排出量:3,300t以下) (対象:生産部門・事務部門)	・CO ₂ の排出量を4,776t以下にします(絶対値)	4,607t	○	地球温暖化の防止	
	6 製品リサイクル	・使用済み製品を500台以上回収します	・広域認定制度に基づき使用済み製品を17台以上回収します ・リサイクル事業の企画を答申します	23台 実施	○	資源循環	
	7 ゼロエミッション	・国内全事業所において、ゼロエミッションを実現します (ゼロエミッション定義:リサイクル率98%以上)	・国内全事業所(31事業所)中18事業所においてゼロエミッションを実現します	19事業所	○	有害物質削減	
	8 グリーン調達	・グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率を90%以上とします	・グリーン調達認定取引先からの部品調達率を80%以上とします ・環境に与える影響が大きい(環境リスクの高い)取引先5社に対して指導を行い、エスペックグリーン調達取引先として認定できるようにします	81% 認定	○	有害物質削減	
	9 全事業所の紙・ゴミ削減	・全事業所での紙・ゴミを削減します	・事務用紙購入量を2007年度比5%削減します ・排出物量を2007年度比5%削減します	紙の購入量 27%削減 排出物量 15%削減	◎	資源循環	
グリーンマイド	10 神戸R&Dセンター環境啓発	・神戸R&Dセンターの森とビオトープを生かした環境教育の空間の充実を図ります	・環境イベント等を通じた社員向け教育の実施で、300名以上に環境啓発します	305名	○	社会貢献	
グリーンアクション	11 宇都宮テクノコンプレックスでの環境啓発	・宇都宮テクノコンプレックスのフューチャラボを活かした市民への環境啓発活動を実施し、来場者を500名以上誘引します	・宇都宮テクノコンプレックスのフューチャラボの来場者を425名以上誘引します	532名	◎		
	12 新エネルギー啓発	・ソーラーカーおよび燃料電池車のラリー参戦を通じて、新エネルギーについての啓発を行います	・ソーラーカーラリーへの参戦を通じて新エネルギーについての啓発を実施します	実施	○		地球温暖化の防止
	13 家庭のグリーン支援	・社員の家庭に対して環境啓発活動を推進します	・エコチャレンジファミリー制度において年度未登録件数を50件以上とします	50件	○		資源循環
	14 取引先のグリーン支援	・環境マネジメント支援を通じてグリーンパートナー(取引先・代理店)を育成します	・取引先さまを新規で1社支援します	1社	○		

第4次環境中期計画 「エスベック2012グリーンプラン」

2009年度、エスベックは、経営環境の変化を勘案し、技術的・経済的観点から環境中期計画の見直しを行い、新たに2012年度へ

に向けた取組みの指標として、第4次環境中期計画「エスベック2012グリーンプラン」を策定しました。

本計画では、「地球温暖化の防止」「資源循環」「有害物質削減」「社会貢献」の4

つのテーマを掲げ、その実現に向けた4つの取組み「グリーンプロダクト」「グリーンプロセス」「グリーンマインド」「グリーンアクション」を進めています。

■第4次環境中期計画「エスベック2012グリーンプラン」

実施期間：2009～2012年度
基本方針：製品・サービスを機軸とした環境経営

重点テーマ	「エスベック2012グリーンプラン」2012年度目標値
地球温暖化の防止	1990年度比CO ₂ 6%削減 排出量 3,470t
資源循環	①国内全事業所の85%でゼロエミッション達成 ②製品リサイクル400台/年
有害物質削減	新製品（モデルチェンジ品含む）の使用部品における可能な範囲でのRoHS対応
社会貢献	社会貢献活動（製品の省エネ・公益信託・森づくり・環境啓発）の拡大

2009年度 目的・目標

No.	目的・目標テーマ	2012年度環境目的	2009年度環境目標	重点テーマ
グリーンプロダクト	1 環境配慮製品開発	・LCA手法を活用し、環境配慮技術の開発を行います	・グリーンコンセプトモデルを具現化します ・「Eファクター」を新製品開発に展開します	地球温暖化の防止
	2 環境配慮製品拡販	・グリーンプロダクトラベル認定製品を年間6,100台以上販売します ・同製品の販売比率を75%以上にします	・グリーンプロダクトラベル認定製品を年間305台以上販売します ・同製品の販売比率を5%以上にします	
	3 お客さまの声	・お客さまの声をフィードバックし、環境に配慮した企業活動に活かします	・お客さまから環境に関する声を120件以上収集し、製品開発につながる事項を3件以上社内に提案します	有害物質削減
	4 製品有害物質管理	・新製品（モデルチェンジ品含む）の使用部品におけるRoHS規制対応を目指します	・新製品についてRoHS非対応部品や素材を明らかにしたうえで、RoHS対応します	
グリーンプロセス	5 CO ₂ 削減	・CO ₂ の排出量を1990年度比6%削減します（CO ₂ 排出量：3,470t以下） （対象：生産部門・事務部門）	・CO ₂ の排出量を3,868t以下にします（2008年度から739t削減）	地球温暖化の防止
	6 製品リサイクル	・使用済み製品の回収を年間400台以上にします	・広域認定制度に基づく使用済み製品の回収を年間100台以上とします	資源循環
	7 ゼロエミッション	・国内全事業所の85%以上において、ゼロエミッションを実現するとともに、全社平均のリサイクル率を99%以上とします （ゼロエミッション定義：リサイクル率99%以上）	・国内全事業所の65%（27事業所中18事業所）以上においてゼロエミッションを実現するとともに、全社平均のリサイクル率を98%以上とします	有害物質削減
	8 グリーン調達	・グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率を80%以上とするとともに、「エスベック・エコ・スタンダード」既認定先のマネジメントレベルを向上させます	・グリーン調達基準に基づく認定取引先からの部品調達率80%を維持します ・「エスベック・エコ・スタンダード」既認定先のマネジメントレベルを向上させます	
	9 全事業所の紙・ゴミ削減	・全事業所での紙の購入量を2008年度比18%（130万枚）削減します ・全事業所での排出物の排出量を2008年度比15%（56t）削減します	・事務用紙の購入量を2008年度比14%（100万枚）削減します ・排出物の排出量を2008年度比10%（37t）削減します	資源循環
グリーンマインド	10 神戸R&Dセンター環境啓発	・神戸R&Dセンターの森とビオトープを活かした社員および市民への環境啓発を年間600名以上に実施します	・環境イベント等を通じた社員向け教育の実施で、400名以上に環境啓発します	社会貢献
グリーンアクション	11 家庭のグリーン支援	・エコチャレンジファミリー制度の参加者比率を全社員の7%以上とします	・エコチャレンジファミリー制度の参加者比率を全社員の4%以上とします	
	12 宇都宮テクノコンプレックスでの環境啓発	・宇都宮テクノコンプレックスのフューチャラボを活かした市民への環境啓発活動を実施し、来場者600名以上誘引します	・宇都宮テクノコンプレックスのフューチャラボを活かした市民への環境啓発活動を実施し、来場者450名以上誘引します	

グリーンプロダクト (環境に配慮した製品とサービス)

エスベックの主力製品「環境試験器」は、低温から高温までさまざまな環境をコントロールするためにエネルギーを消費しており、その環境負荷は小さいものではありません。

当社は「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定し、製品の省エネはもとより、リサイクルや化学物質の適正使用など総合的な視点から環境配慮製品の開発・提供を進めています。

●環境配慮製品創出への取組み

環境に配慮した製品の提供を通じて、環境負荷低減に努めています。

製品の環境的側面

当社の主力製品「環境試験器」は、金属の内外槽、ウレタン断熱材、電気・機械部品などで構成されており、人工的に環境を再現するために、HFCフロンを用いた冷凍回路と電気ヒーターとのバランスで温湿度を制御しています。

この環境試験器が地球環境に与える影響は、

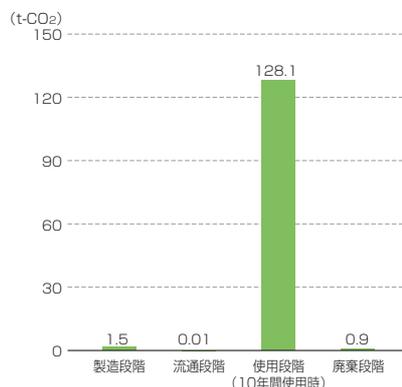
- 運転時の電力消費による地球温暖化
- HFCフロンが大气放出された場合の地球温暖化
- 製品廃棄時の廃棄物処分場への負担などがあり、多くの改善点を抱えています。

製品の消費電力とその影響

LCA(ライフサイクルアセスメント)による評価では、製品を製造する際に排出されるCO₂とお客さま先で10年間使用する際に排出されるCO₂を比較すると、代表機種(プラチナス4型)の場合、使用時の方が製造時に比べて約85倍となり、影響が大きいことが分かっています。

このことから製品使用時における消費電力の削減に取組むことで、地球温暖化防止に貢献することが重要と考えています。

■各段階でのCO₂排出量(プラチナス4型事例)



環境配慮製品の拡販

環境に配慮した製品の提供を通じて、お客さま先での環境への負荷の低減に努めています。なかでもお客さまに対し省エネ製品を提供することは、地球温暖化の防止に大きく寄与すると考えています。

以下のグラフは、環境配慮製品の拡販実績と、これに伴うお客さま先での電力使用量の削減効果です。

2008年度は、約8,400t相当のCO₂削減効果がありました。

■お客さま先での製品消費電力削減量



製品開発の基本的な考え方

「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定し、お客さまや社会のお役に立つ製品として安全・品質・価格・環境・納期のすべてを満足する製品を開発することを基本としています。

2008年度は、最新の法規制を踏まえて「環境配慮開発設計ガイドライン」の全面改訂を実施しました。

環境配慮開発設計ガイドライン (改訂版) の主な内容

- 製品の開発・設計者が環境に配慮した設計を心がけるように、省エネルギーや省資源化など、設計において配慮すべき10項目を定め、それぞれに関する基本的な考え方を定義

- 開発設計フローと環境負荷設計との係わりを明確にし、フローに沿って設計を行えば、自動的に環境に配慮したものになるよう改定
- LCA手法の観点で踏まえ、エスベック独自の製品の環境効率指標「Eファクター」を追加
- 環境配慮設計の際に用いるチェック項目を全面見直し
- 最新法規制に基づく環境配慮事項を追加・修正
- 使用推奨素材、使用禁止物質を指定

「Eファクター」について

2006年度にLCA手法を導入し、現行主力製品における環境負荷について評価を開始しました。

LCA手法の導入当初は、省エネルギー等環境負荷項目についてのみ評価を行っていましたが、製品の機能面・性能面の評価も合わせた総合評価基準として、2008年度に製品の環境効率を示す指標「Eファクター」を立案しました。これらの取組みは今後の製品開発に活かしていく予定です。

$$Eファクター = \frac{\text{品質機能ファクター(温度上昇降下時間等)}}{\text{環境負荷ファクター(CO}_2\text{)}}$$

リサイクルへの取組み

従来製品は、金属材料と樹脂材料が混在しており、廃棄の際の分別が困難であり、廃棄物処分場に負担をかけています。エスベックでは開発段階から製品のリサイクルを考慮し、

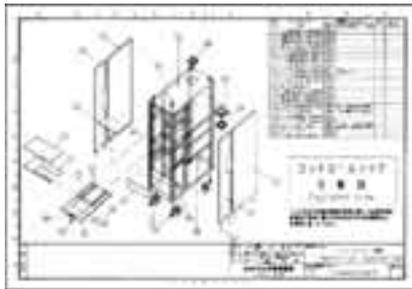
- 解体・分別しやすい構造
- 樹脂部分の材質マーキング



材質マーキングの例

などを新製品・モデルチェンジ品に順次適用しています。2008年度は、広域認定制度に基づく使用済み製品の回収リサイクルサービスを開始しました。

(本サービスの詳細は39ページ参照)



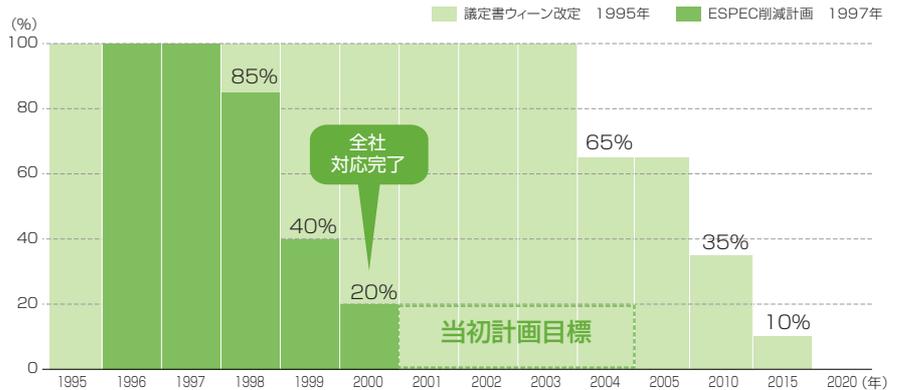
解体手順書

冷媒フロンへの取組み

1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除しました。次にオゾン層破壊係数「0」のHFCフ

ロンへの転換を進めました。性能、信頼性等に関する問題を解決しながら、2000年度に当社製品の冷凍回路のHFC転換を完了させています。

■HFCフロンへの転換の推移



●化学物質の適正使用

危険有害化学物質排除に向けて、自主的にRoHS指令対応部品への代替化を進めています。

危険有害化学物質排除に向けて

製品設計にあたり使用禁止物質を指定し、有害物質の使用を削減してきました。

昨今話題となっているRoHS指令における6品目の有害物質については、2009年3月末現在、当社製品はRoHS規制の対象製品ではありませんが、2013年度の全廃へ向けて、自主的にRoHS対応部品への代替化を進めています。

PRTR法 (化学物質排出移動量届出制度)への対応

エスベックでは、約400種類の危険有害化学物質を使用しています。(当社基準に基づく選定)。これらに対し、MSDSの配備、使用・保管に関する手順書の整備、より安全性の高い物質への置換えの促進など適正な管理を実施しています。

化学物質の移動量管理については、自主管理基準で1kg以上を集計単位として管理しています。また、お客さま先での作業に伴う化学物質の使用についても集計しています。

2008年度、PRTR法では指定化学物質の見直しがありましたが、報告義務のある1t以上の取扱量となる物質はありませんでした。

アスベスト対応

エスベックでは、過去の製品において断熱材やパッキンの一部にアスベスト含有部材を使用していた時期があります。2006年6月末までに全ての製品においてアスベスト含有部

材の使用を取り止めました。

従来から当社製品をご利用いただいているお客さまに対しては、当社製品のアスベストに関する情報を、ホームページや個別対応にて積極的に情報を公開しています。

■2008年度 全社PRTR実績

事業所内					(自主測定) 事業所外	
	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	
第1種指定化学物質の名称	HCFC-225	トルエン	ヒドラジン	エチレングリコール	HCFC	CFC
第1種指定化学物質の号番号	144	227	253	43		
年間取扱量	0.06	0.34	0.03	0.02	1.18	0.005
製品への含有分 (自主測定項目)	—	—	—	—	1.05	—
リサイクル分 (売却分) (自主測定項目)	—	—	—	—	—	—
排出量	イ) 大気への年間排出量	0.06	0.34	—	0.01	0.001
	ロ) 公共用水域への年間排出量	—	—	—	—	—
	ハ) 当該事業所における土壌への排出 ニ) 以外	—	—	—	—	—
	ニ) 当該事業所における埋込処分	—	—	—	—	—
移動量	イ) 下水道への移動	—	—	0.03	—	—
	ロ) 当該事業所の外への移動 イ) 以外	—	—	0.02	0.13	0.004

●環境配慮製品

製品の環境性能をお客さまに分かりやすくお伝えするため、製品への環境ラベル表示を開始しました。

グリーンプロダクトラベル

2009年4月、環境配慮製品の開発促進および製品に関する環境情報の積極的な公開を目指し、当社が定める環境配慮認定基準を満たした製品に環境ラベルを貼付する「グリーンプロダクトラベル」認定制度を開始しました。

「グリーンプロダクトラベル」は、ISO（国際標準化機構）で定められた環境ラベルのうち、自己宣言型（タイプII）の環境ラベル（ISO/JISQ14021）に相当するものです。

「グリーンプロダクトラベル」の認定は、環境管理部門が「グリーンプロダクトラベル」認定基準を満たしているか否かによって審査・承認し、貼付可否の判断を行います。



グリーンプロダクトラベル

グリーンプロダクトラベル認定基準

<判断対象範囲>

2009年4月以降に国内向けに発売される以下の製品

- モデルチェンジ製品、シリーズ化製品、新規製品
- 現行機種種の改善・改良品
- 個別受注対応品

<評価基準>

従来製品との消費電力を比較し、製品ごとに定める当社指定運転パターンにおいて、従来比15%以上の省エネが達成していること

※グリーンプロダクトラベル認定製品の最新情報は当社HP (www.espec.co.jp) をご参照ください。

グリーンプロダクトラベル認定製品 (2009年6月30日現在)

■恒温恒湿器 プラチナスKシリーズ エコモデル

特徴:

従来比省エネ15%以上を達成 (指定運転パターン) 温湿度制御方法を見直し



製品型式	運転条件 ※	従来モデル 消費電力 (kWh)	エコモデル 消費電力 (kWh)	比較 省エネ率
PL-2KT(H)-E PL-2KP(H)-E PU-2KT(H)-E PU-2KP(H)-E	60℃	1.56	0.96	38%
	20℃	1.42	0.84	41%
	-40℃	1.58	0.76	52%
PL-3KT(H)-E PL-3KP(H)-E PU-3KT(H)-E PU-3KP(H)-E	60℃	1.54	1.01	35%
	20℃	1.40	0.84	40%
	-40℃	1.61	0.98	39%
PL-4KT(H)-E PL-4KP(H)-E PU-4KT(H)-E PU-4KP(H)-E	60℃	1.74	1.18	32%
	20℃	1.58	0.95	40%
	-40℃	3.44	2.10	39%
PWL-3KP-E PWU-3KP-E	60℃	1.56	1.04	33%
	20℃	1.80	1.26	30%
	-40℃	1.96	1.22	38%
PWL-4KP-E PWU-4KP-E	60℃	1.74	1.23	29%
	20℃	2.03	1.13	44%
	-40℃	3.82	2.54	33%

※無負荷・安定状態での測定値となります。

■冷熱衝撃装置 TSAシリーズ エコ運転機能搭載

特徴:

従来比省エネ15%以上を達成 (指定運転パターン) 温度制御方法を見直し



製品型式	運転条件	試料		標準運転 消費電力 (kWh)	エコ運転 消費電力 (kWh)	比較 省エネ率
		プラスチック モールドIC (kg)	棚板 棚受 (kg)			
TSA-71S-A	高温さらし 125℃ 30分 (予熱140℃) 低温さらし -40℃ 30分 (予冷-50℃)	5.0	1.5	14.1	11.2	21%
TSA-71H-W		3.5	1.5	15.8	11.4	28%
TSA-101S-W		5.0	2.5	11.9	8.8	26%
TSA-101L-A		2.5	2.5	7.7	6.2	20%
TSA-201S-W		20.0	6.0	16.7	12.2	27%
TSA-301L-W		24.0	7.0	16.7	12.3	26%

グリーンプロセス (環境に配慮した工程)

グリーンプロセスとは、事業活動のすべてのプロセスにおいて、環境に配慮することをいいます。

エスベックでは、各拠点・部門で自分たちにできることを主体的に考え、環境負荷低減に向けた取組みを推進しています。

そうした取組みの一つが広域認定制度に基づく、「製品リサイクルサービス」。

これにより、お客さまから使用済み製品を回収し、適正にリサイクル処理することが可能になりました。

●各工程における環境配慮の取組み

製造段階から配送まで幅広い範囲で環境負荷低減に努めています。

サービスでの取組み

製品回収

2007年度に環境大臣より広域認定制度の認定を受け、2009年1月より「製品リサイクルサービス」を開始しました。この「製品リサイクルサービス」は、お客さま先で使用済みとなった当社の環境試験器について、お客さまと「産業廃棄物処理委託契約」を締結し、有償にて製品を回収し、再資源化するものです。

これにより、お客さまの廃棄手続きにかかる負担の軽減を図るとともに、廃棄物を適正にリサイクル処理していきます。2008年度は使用済み製品を23台回収しました。

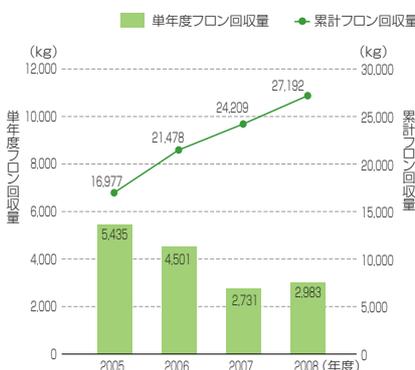
(本サービスの詳細は39ページ参照)

フロン回収

1995年度から修理・廃棄時のフロン回収を実施しており、「フロン回収・破壊法」に基づく第一種フロン類回収業登録を全国の自治体にて行っています。回収した冷媒フロンは、フロン類破壊処理業者にて高温プラズマ破壊等の処理を行い無害化します。

2002年度からは、それまで回収が困難とされていた低沸点冷媒フロンについても各サービス拠点において回収を行っています。これらの回収量はお客さまのご理解も得られ、27,192kg (2009年3月末現在累計) にもおよびています。

■フロン回収量



物流での取組み

資材調達

仕入先さまからの資材・部品納入に伴う梱包材、緩衝材を削減するため、仕入先さまと共同して、通箱化を進めています。また、緩衝材などは、社内で保管し、再使用しています。これらの取組みにより、廃プラスチック量を削減することができました。

製品輸送

従来、国内においてトラックによる製品輸送を行っていましたが、地球温暖化を防ぐためにモーダルシフト(鉄道輸送の活用)を始められています。2007年度からは、貨物輸送の拠点である大阪を起点に、北海道、九州、東京などの長距離輸送において、トラック輸送から貨物輸送への切り替えを行っています。

関係各社のご協力のもと、これらの取組みを実施した結果、2008年度の1年間で約20t相当のCO₂削減効果を得ることができました。また1997年度より、輸送時の環境負荷を減らすため、製品出荷時の梱包材には木枠からダンボールへの材質変更を実施しています。



モーダルシフト

事業所での取組み

ゼロエミッションへの挑戦

エスベックでは自らの事業活動に伴い発生する廃棄物について、再利用・再生利用を推進し、全事業所におけるゼロエミッション(リサイクル率98%以上)を目指しています。2009年3月現在、全31事業所のうち、約6割にあたる19事業所においてゼロエミッションを達成しました。

全事業所における平均リサイクル率は97.7%に達しています。

また、2009年度からは、ゼロエミッションの定義を従来のリサイクル率98%から99%に改め、さらなるレベルアップを目指しています。

事務用紙の削減

大切な森林資源を守るために、事業所における紙の削減に取組んでいます。2008年度は、使用済み用紙の裏面利用や縮小・両面コピーの定着、社内配布資料の配布先見直しを行いました。あわせて、製品の取扱説明書のCD-ROM化などを進めることで、事務用紙の購入量は721万枚となり、2007年度の991万枚から約270万枚(27%)削減することができました。

■事務用紙の購入量



社有車のガソリン削減

営業車、サービスカーなど、社有車の使用に伴うCO₂の排出量は全体の約2割を占めています。公共交通機関の利用、ハイブリッド車など低燃費車への切り替え、アイドリングストップ装置の導入、車両タイヤ圧の点検などの取組みにより、2008年度のガソリン・軽油総使用量は374klと、2007年度から28kl(7%)削減することができました。

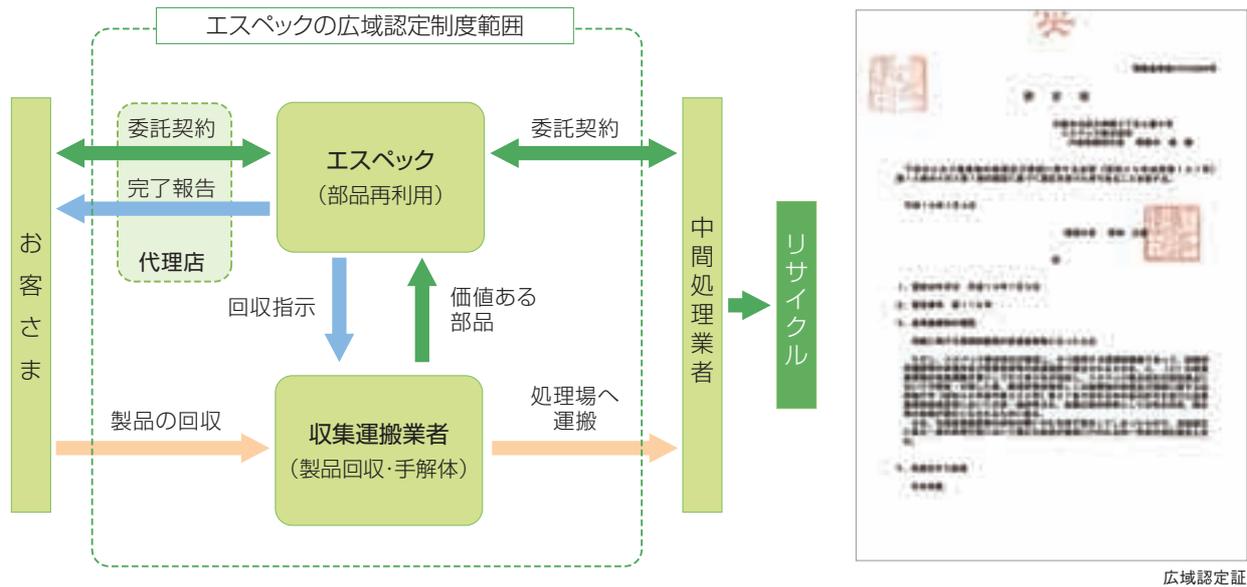
■社有車の燃料使用量



TOPICS | トピックス

2009年度より「製品リサイクルサービス」の本格運用を開始

エスペックは2007年7月3日に環境大臣より「広域認定制度」の認定を取得し、2008年度には資源循環を促進する取組みとして、環境試験器の「製品リサイクルサービス」を試行運用し、2009年度より本格運用を開始しました。



※広域認定制度とは、製造事業者が広域的に自主回収および再利用を行うことによって、廃棄物の減量その他適正な処理の確保に資すると認められる廃棄物の処理について、環境大臣がその回収および処理の許可を認める制度です。

お客さまのメリット

- 当社と一括契約することで、通常必要な収集運搬業者・中間処理業者との複数契約が不要になります。
- 当社書式の産業廃棄物管理票を manifests の代わりに発行することで、お客さま先での Manifest 発行・管理等が不要になります。
- 産業廃棄物データシート (WDS) の提出が不要になります。
- 収集運搬業者や中間処理業者への視察が不要になるとともに、業者による不法投棄等のリスクを軽減することができます。

回収拠点

製品リサイクルサービスの回収拠点は、以下のとおり、関東・東海・西日本エリアにおいて計5箇所設置しています。



進捗状況照会サービス

当社の社外ホームページ上において、廃棄製品の処理状況をリアルタイムにお知らせする「進捗状況照会サービス」を提供しています。

URL : http://www.espec.co.jp/support/support_program/support_program05.html

■進捗状況照会内容



グリーンマインド (環境教育)

環境を守り、より良いものにしていくためには、社員一人ひとりが環境のことをよく知り、環境を愛する心を持つことが重要です。

エスベックでは、自然に親しみながらその大切さを知り、守る心を育む環境教育を目指し、事業所内での植樹活動や、ピオトープの設置などを行っています。

●社内における環境啓発活動

事業所における植樹活動や環境関連行事の開催を通じて、社員の環境啓発に取り組んでいます。

エスベック環境ウィーク

環境保全・改善に対する意識の高揚を目的として、1997年以来、6月5日の「世界環境デー」を含む週を「エスベック環境ウィーク」に設定しています。全社員、お取引さま、ならびにそのご家族などを対象に、環境啓発に関わるさまざまな取組みを行っています。

2008年度は、「環境改善提案」「環境功労表彰(部門・個人)」「環境写真コンテスト」「環境ポスターコンテスト」等の各種表彰や地域清掃活動などを実施しました。

(各種表彰における上位受賞者作品はP46参照)

環境ニュース

社員向けの環境啓発活動の一環として、「環境ニュース」を定期発行しています。ここでは、環境関連行事や各事業所の環境管理活動の事例紹介などを行っています。最近の話題はやはり地球温暖化対策です。2008年度は身近な改善活動の特集として、「今月のエコなひと・こと」(2月号はエコ通勤)を掲載しました。



環境ニュース2009年2月号

エスベックの森

「エスベックの森」は、(財)国際生態学センター研究所所長(横浜国立大学名誉教授)宮脇 昭博士のご指導のもと、幼苗植栽手法により土地本来の潜在自然植生を利用した「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり」を実践したものです。

2001年度の神戸R&Dセンターでの植樹祭を皮切りに、2004年度には松本営業所、2007年度には豊田試験所での植樹祭と、全国各地で当社社員とその関係者の手による森づくりを通じた環境教育を実施しています。

これまでに延べ1,100人の手により、約31,000本の苗木を事業所敷地内に植樹しています。



神戸R&Dセンター植樹祭



神戸R&Dセンターの成長した森

これらの取組みにより、年間30t相当のCO₂の吸収が期待されています。

また森づくりの新たな取組みとして、2007年度からは自治体(京都府)と協力し、地域の森林を保全する「京都モデルフォレスト」活動に参画しており、これまでに延べ108人が参加しました。この活動により、年間0.9t相当のCO₂の吸収が期待されています。

ピオトープ

神戸R&Dセンター内にある当社のピオトープ(生物生息空間)は、その土地本来の植物(在来種)を厳選して植栽しており、メダカが泳ぐ清らかなせせらぎには、トンボやゲンゴロウが飛来するなど、神戸市本来の自然生態系が形づくられてきています。

2009年5月、当社のピオトープは、長年にわたる適正な維持・管理が認められ、日本ピオトープ協会より「顕彰委員長賞(自然創出部門)」を受賞しました。

当社社員や来訪者、近隣の子供たちが、自然を「見て、触れて、感じる」ことにより、自然との共生や環境保全について学ぶ場として引き続き活用していきたいと考えています。



エスベックのピオトープ

エスベックの森とピオトープに棲む野鳥パンフレット

環境大会

環境啓発の一環として6月5日「環境の日」に、全社環境大会を開催しています。2008年度は、社員および主要な取引先の方々、約100名が参加し、社長よりエスベックの製品・サービスを機軸とした環境経営についての発表と、外部講師による講演を行いました。



全社環境大会

グリーンアクション (社会貢献)

エスベックは、社外に向けても広く環境啓発活動・貢献活動を推進しています。太陽光発電のフィールドテストや環境フェスティバルの開催、子供たちへの環境教育、モデルフォレスト(森林保全活動)やグリーンカーテン育成活動などに取組み、着実に成果をあげています。また、各種表彰を受賞するなど、社外からも高く評価いただいています。

●社外における環境啓発活動

社員とその家族への環境支援活動により、8tのCO₂削減効果を得ることができました。

新エネルギー・太陽光発電の研究

NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)との共同事業を通じ、太陽光発電のフィールドテストを実施しています。1995年度に宇都宮テクノコンプレックスへ40kW相当の太陽光発電施設を初めて設置して以来、2006年度には新たに神戸R&Dセンター(50kW相当)と福知山工場(50kW相当)に設置し、主要な生産拠点・研究拠点において太陽光発電の長期信頼性を研究するための基礎データの採取を実施しています。

2008年度は3拠点の太陽光発電により、約50tのCO₂を削減することができました。



福知山研修センター(福知山工場内)



太陽光発電システム管理画面

フューチャーラボ(展示館)の運営

宇都宮テクノコンプレックスでは太陽光発電施設の隣に、「フューチャーラボ」(展示館)を設置しています。ここでは、太陽光発電や燃料電池の模型、パネル展示、環境関連文献などに実際に触って体験していただくことができます。2008年度の来場者数は532名で、これまでに延べ7,214名と大変多くの方々にご来場いただいています。



フューチャーラボにおけるソーラーカー乗車体験

環境フェスティバル

自社で環境フェスティバルを開催するとともに、地域の環境フェスティバルへも積極的に参加しています。毎年8月には宇都宮テクノコンプレックスで開催するほか、12月には京都府が主催する地域の環境フェスティバルへ燃料電池車などを出展しています。

2008年度の来場者数は約200名でした。



環境フェスティバル(京都)

ソーラーカー・ラリーへの参戦

秋田県大潟村ソーラースポーツラインで開催されるワールド・ソーラーカー・ラリーへの参戦を通じ、太陽光発電に関する基礎研究と社会への啓発を行っています。

2008年度は、ソーラーカー部門でクラス優勝することができました。



ワールド・ソーラーカー・ラリー

河川の生き物観察会

当社の福知山工場では、2002年度より毎年7月、天津公民館で行われる小学生を対象にした親子水質観察会に協力しています。COD簡易測定キットで水の汚れを測定したり、生物指標を用いて水質を確認することで、環境を身近なものとして考えるお手伝いをしています。



天津公民館 水質検査

グリーンカーテン育成活動

2007年度より、子供たちの地球温暖化防止や省エネに対する意識の向上を目的として、福知山環境会議との協賛によるグリーンカーテンの温度上昇抑制効果の検証活動を開始しました。

2008年度は、福知山市内の3つの小学校から200名を超える先生・生徒のみなさんに参加していただきました。生徒のみなさんは、自分たちで植えたゴーヤが教室の温度を約3℃も下げることを知り、とても驚いていました。グリーンカーテンが果たす役割の大きさを実感することで、自然の大切さを学んでほしいと考えています。



ゴーヤカーテン

京都モデルフォレスト

当社は2007年、福知山市大江町毛原自治会と森林利用保全協定を結びました。京都府北部では初めての協定となり、「森林を核とした持続的な地域づくり」として自治体と共同して森林整備に取り組んでいます。

約2haの雑木林の整備を通して美しい棚田を維持し、つつじの森を取り戻すための活動に貢献しています。



京都モデルフォレスト

家庭での環境活動の支援

2007年8月からスタートした「エスベックエコチャレンジファミリー制度」は、エスベックの社員およびその家族の「環境活動(エコ・ライフ)」を支援する制度です。

家庭での省エネ、ごみの削減、エコ通勤(自転車通勤)などの実績を「環境家計簿」に記録・報告いただき、「エコポイント」を付与して、省エネタイプの家電製品買換を支援します。

2008年度は、50家族の7ヶ月間(2008年9月～2009年3月)の活動成果として、合計8tのCO₂を削減することができました。



運用マニュアル表紙

●社外からの評価

「兵庫県環境にやさしい事業者賞」をはじめ、複数の環境関連表彰を受賞しました。

「平成20年度ごみ減量優良建築物市長表彰」の受賞

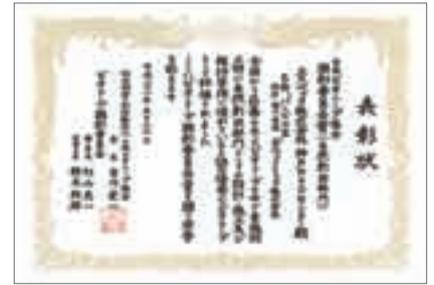
2008年10月、「平成20年度ごみ減量優良建築物市長表彰」を受賞しました。これは、大阪市が廃棄物の減量推進に成果のあった事業者に対して表彰を行っているものです。



感謝状

「日本ビオトープ協会顕彰委員長賞」の受賞

2009年5月、「日本ビオトープ協会顕彰委員長賞(自然創出部門)」を受賞しました。これは、優れたビオトープを設置している事業者に対して、日本ビオトープ協会が表彰を行っているものです。



表彰状

「兵庫県環境にやさしい事業者賞」の受賞

2009年6月、「第18回兵庫県環境にやさしい事業者賞」を受賞しました。「環境にやさしい事業者賞」は、兵庫県が、県民の環境に配慮した新しいライフスタイルづくりへの貢献と、事業者の環境保全活動の促進を図ることを目的に、優れた環境保全活動を展開している事業者に対して表彰を行っているものです。

環境経営度調査

エスベックは、日本経済新聞社主催の「2008年度環境経営度調査」で、101位に評価されました。この調査は、企業の環境対策を総合的に評価することを目的に、各企業のアンケート結果をもとに「環境経営度スコア」を作成し、日本経済新聞がランキング形式で紙面発表しているものです。

2008年度は、温暖化対策や資源循環の促進、運営体制の強化などを積極的に行ったものの、2007年度の86位からやや順位を下げた結果となりました。

■環境経営度調査実績

年度	ランク
2004年度	94位
2005年度	67位
2006年度	154位
2007年度	86位
2008年度	101位



授賞式

HOT VOICE

【フューチャーラボの運営】

地域のみなさまに環境に関心を持つきっかけを提供したい。

宇都宮テクノコンプレックスは、栃木県の「工場・研究施設等の一般公開施設」として登録されています。企業や行政関係の方だけでなく、地域貢献として地元小・中学校の環境学習を受け入れており、私が担当しています。子供たちは、最初はあまり関心を見せないものの、野菜工場ではと目を輝かせ、環境展示館に入ると、ソーラーカーや燃料電池車の模型に触ったり、パソコンで環境クイズにチャレンジするなど、好奇心いっぱいさまざまなコーナーを見学しはじめます。

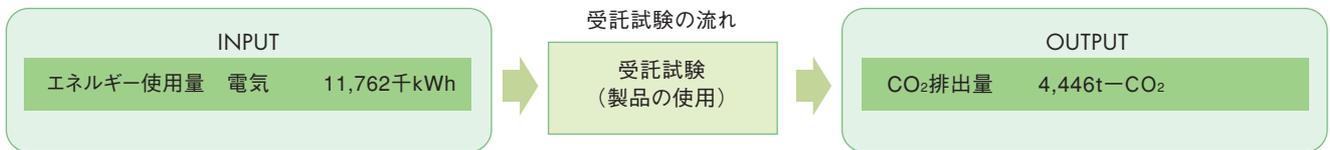
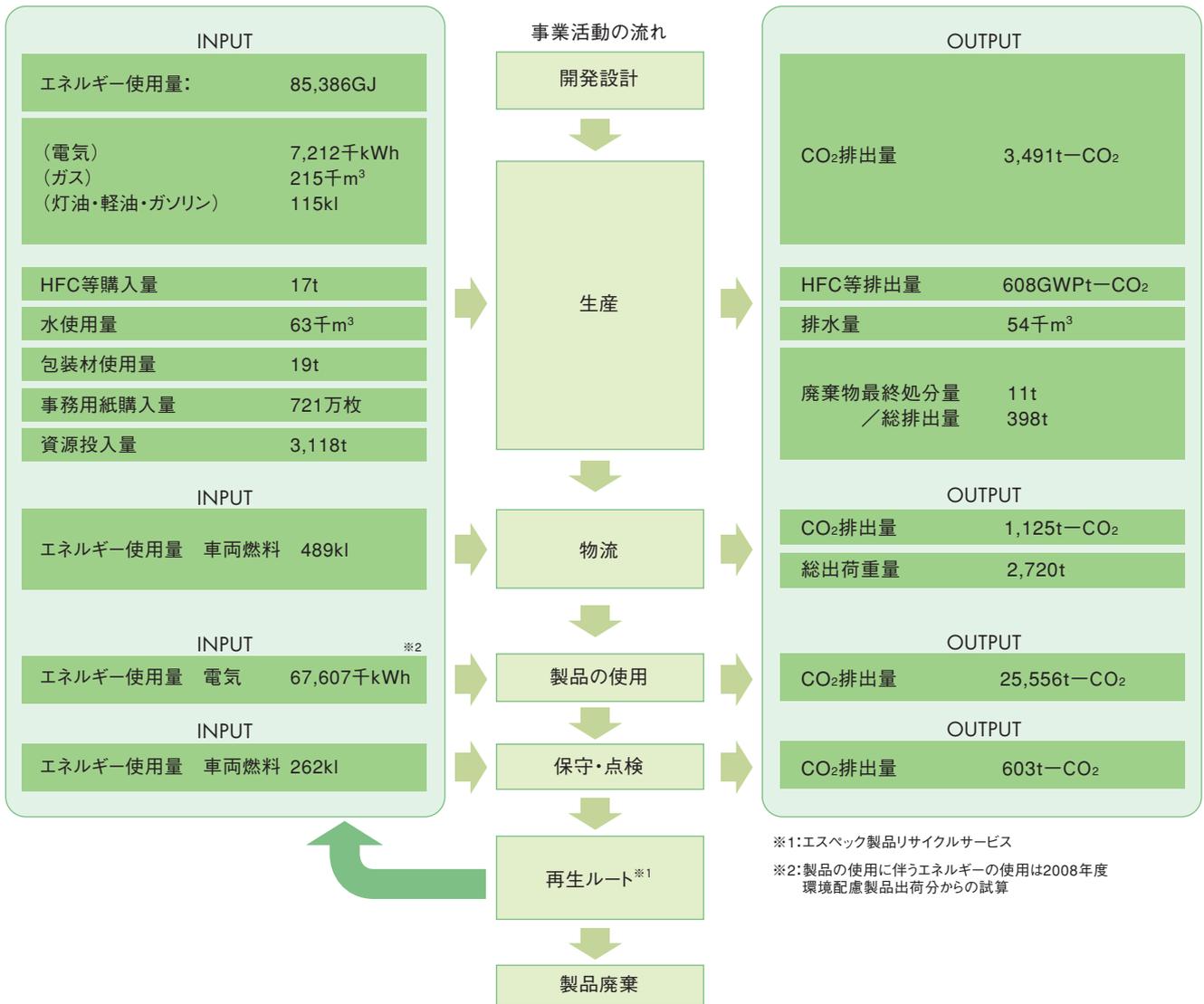
また、地域住民の方々への情報提供として、夏休みに環境イベントも開催しています。このような見学会やイベントを通じて、地域のみなさまに少しでも環境に関心を持ってもらえればと思っています。

UTC管理グループ マネージャー 永山 俊郎



物質フロー

■2008年度実績



■算出根拠

換算係数	原油換算	熱量換算	CO ₂ 換算
①電力	1kWh=0.257kl	1kWh=10.0GJ	1kWh=0.38t-CO ₂
②長田野ガス	1千m³=1.16kl	1千m³=45.0GJ	1千m³=2.28t-CO ₂
③都市ガス	1千m³=1.06kl	1千m³=41.1GJ	1千m³=2.29t-CO ₂
④LPガス	1千m³=2.68kl	1千m³=103.9GJ	1千m³=6.2t-CO ₂
⑤灯油	1kl=0.947kl	1kl=36.7GJ	1kl=2.5t-CO ₂
⑥軽油	1kl=0.986kl	1kl=38.2GJ	1kl=2.3t-CO ₂
⑦ガソリン	1kl=0.893kl	1kl=34.6GJ	1kl=2.3t-CO ₂

※「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(環境省)を参考に設定

実績データ

■サイト別データ(2008年度実績)

	エスベック 本社	福知山 工場	宇都宮 テクノ コンプレックス	神戸R&D センター	エスベック エンジニアリング 本社	全国の営業所・ プラント等 23事業所合計	刈谷・豊田試験所 ・横浜R&Dセンター 合計	ISO14001 一括取得 対象事業所合計 (31事業所)
地域区分	商業地域	工業専用 地域	工業専用 地域	準工業地域	準工業地域	—	—	—
主な業務・ 生産物	環境試験装置・ 電子デバイス装 置の販売、開発、 設計ならびに資 材・部品の購買 業務	環境試験装置・ 電子デバイス 装置	電子デバイス 装置	技術開発拠点 および 受託試験	環境試験装置・ 電子デバイス 装置等の メンテナンス (点検・保守)	環境試験装置・ 電子デバイス 装置の販売、 メンテナンス (点検・保守)	受託試験、 製品レンタル	—
排出物の発生量 (総量)※	20.6t	314.2t	7.7t	20.5t	11.6t	79.0t	4.3t	457.9t
産業廃棄物量	0.0t	99.2t	6.3t	13.9t	7.7t	65.3t	2.4t	194.8t
事業系一般廃棄物量	20.6t	56.2t	1.4t	1.0t	1.1t	13.3t	2.0t	95.4t
有価物	0.0t	158.9t	0.0t	5.7t	2.8t	0.4t	0.0t	167.7t
電力	74万kWh	346万kWh	208万kWh	232万kWh	17万kWh	61万kWh	960万kWh	1,897万kWh
事務用紙購入量	223万枚	169万枚	16万枚	40万枚	26万枚	229万枚	18万枚	721万枚
ガス使用量	34,794m ³	133,562m ³	0m ³	44,932m ³	29m ³	2,087m ³	7m ³	215,411m ³
社有車保有台数	13台	5台	11台	5台	15台	147台	16台	212台
うち、ハイブリットカー	3台	2台	2台	0台	1台	14台	3台	25台
燃料使用量 (ガソリン)	21kl	5kl	24kl	6kl	15kl	286kl	11kl	369kl
燃料使用量 (軽油)	—	—	—	—	—	4.7kl	—	4.7kl
走行距離	291,703km	82,183km	232,583km	70,607km	157,153km	3,163,907km	139,041km	4,137,177km
遵法への対応 (騒音など)	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
地域からの クレームなど	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし	クレームなし

※お客さま先での作業時発生分を含む

環境会計

■2008年度環境会計

集計範囲:エスベック株式会社、エスベックエンジニアリング株式会社
対象期間:2008年4月1日～2009年3月31日

■環境保全コスト

(千円)

分類	主な取組みの内容	2007年度		2008年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1)	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	7,927	60,815	10,050	50,609
内訳	①公害防止コスト	483	1,817	—	1,417
	②地球環境保全コスト	7,444	37,502	10,050	33,962
	③資源循環コスト	—	21,497	—	15,230
(2)	生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)	—	—	—	—
(3)	管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	—	81,780	—	64,564
(4)	研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	—	596,360	—	314,939
(5)	社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	11,205	40,999	457	17,141
(6)	環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)	—	—	—	—
合計		19,132	779,954	10,507	447,253

(千円)

項目	2007年度	2008年度
当該期間の投資額の総額	747,814	264,670
当該期間の研究開発費の総額	1,836,752	2,101,811

■環境保全対策に伴う経済効果

(千円)

効果の内容		金額
収益	リサイクルにより得られた収入額	6,621
費用削減	省エネルギーによる費用削減	2,077

■環境保全効果

効果の内容		環境保全効果を表す指標		
		指標の分類	指標の値	
(1)	事業活動に投入する資源に関する効果	電力の使用	2007年度	2008年度
		発生総量(万kWh)	838	700
		削減量(対前年比)(万kWh)	5.0	138.5
		原単位(万kWh/億円)	2.6	2.7
		原単位での削減率(対前年比)(%)	-5	-5.2
(2)	事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	廃棄物の排出	2007年度	2008年度
		発生総量(t)	13.5	8.8
		削減量(対前年比)(t)	6.8	4.7
		原単位(kg/億円)	41.9	34.4
		原単位での削減率(対前年比)(%)	29.7	17.8
		売上高(単純合算)(億円)	322.2	255.6

※-付きの値は増加分
※電力は、生産部門+事務所電力の合計
※廃棄物は、事業所内で発生した埋立廃棄物の合計

エスペック環境ウィーク 2008年度上位入賞者作品

エスペックでは、1997年より「エスペック環境ウィーク」を設け、従業員などへの啓発活動を行っています。
その一環として、2008年度からは環境川柳・写真・ポスターコンテストなどを実施。
従業員はもとより、お取引先さまやそのご家族からもご応募いただいています。

環境川柳部門 テーマ:CO₂

● **大賞** **最安値 エンジンかけて 長い列** 相互電機 株式会社 安田 三樹子さん

環境写真部門 テーマ:かけがえのない地球



● **大賞**
「ペットボトルのトンネル」
株式会社 誠工社
秋山 薫さん



● **優秀賞**
「奇跡」
エスペック株式会社
生産本部 機器生産部
スタンダード1グループ
水谷 正平さん



● **優秀賞**
「癒される場所」
エスペック株式会社
生産本部 生産管理部
供給配膳グループ
四方 浩昭さん



● **優秀賞**
「一瞬の輝き」
エスペック株式会社
関係会社管理部
関係会社管理グループ
平野 等さん ご家族

環境ポスター部門 テーマ:地球温暖化/資源循環/汚染の防止/自然の保護



● **大賞**
「自転車通勤
はじめませんか?」
エスペック株式会社
生産本部 生産管理部
供給配膳グループ
四方 浩昭さん ご家族



● **優秀賞**
「川を美しく」
エスペック株式会社
生産本部 生産管理部
供給配膳グループ
四方 浩昭さん ご家族



● **優秀賞**
「地球温暖化」
オオヨド急運株式会社
田丸 公子さん



● **優秀賞**
「Keep The Nature,
Keep The Future」
エスペック株式会社
生産本部 生産技術部
海外支援グループ
森田 訓行さん



● **優秀賞**
「風車のある棚田」
株式会社精和工業所
資材部
柏村 文路さん

編集後記

環境マネジメントレポートとして8冊発行し、2005年から本誌がCSRレポートとなっており、今回で5冊目となります。今回のCSRレポートでは、重点的に取り組んでいるCSR活動の特集記事としてご紹介したほか、担当社員からのメッセージを掲載するなど、読者のみなさまにとって、より親しみやすく分かりやすいものになるよう努めました。
今後もみなさまからのご意見・ご要望に真摯に向き合い、一層の充実を図ってまいります。
みなさまからの忌憚のないご意見をお待ちしております。

お問合せ先

エスペック株式会社 総務人事部 総務グループ・環境管理部
〒530-8550
大阪市北区天神橋3-5-6
電話:06-6358-5005 FAX:06-6358-6382
E-MAIL:csr@espec.co.jp



エスペック株式会社

530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500
<http://www.espec.co.jp/>